



Title	清代モンゴルにおける監獄の管理 :19世紀末庫倫辦事大臣衙門監獄の看守と被収監者
Author(s)	萩原, 守
Citation	内陸アジア言語の研究. 2025, 40, p. 61-89
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/103904
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

清代モンゴルにおける監獄の管理

——19世紀末庫倫辦事大臣衙門監獄の看守と被収監者——

萩原 守^{*}

はじめに

筆者は従来、主として清代モンゴルにおける裁判とそこで適用される法の研究を行ってきたが、19世紀末に外モンゴル東方のフルンボイル地方で起こった「オドセルとナワーンの事件」を追究する内に、強盗殺人犯オドセルが収監されていてそこから脱獄した重罪犯向けの庫倫辦事大臣衙門⁽¹⁾監獄⁽²⁾（以下、フレー監獄と呼ぶ）について興味深い史料を発見することができた⁽³⁾。外モンゴルの代表的な都市フレー（küriy-e、漢語で庫倫、ロシア語で Урга ウルガ、現在のウランバートル市）に存在していて、住民の日常生活にとって大変身近であったはずのこの監獄の実態を研究することは、ある意味で法制史と社会史とをつなぐような存在意義を有すると筆者は考えている。また、統一された法（清朝蒙古例）の存在と共に、裁判制度を含むこれら完備された清代の法制機構がモンゴルに独立をもたらしたと考えられる点⁽⁴⁾でも、研究する価値は高いと言えるであろう。

19世紀末におけるこのフレー監獄の概容と脱獄実態の一端は既に拙稿萩原 2024⁽⁵⁾にて明らかに

^{*} 摂南大学法学部特任教授（HAGIHARA Mamoru. Specially-Appointed Professor, Faculty of Law, Setsunan University）

- (1) 清代のモンゴルは、理藩院の管轄下で盟 *čiyul'yan*、その下の旗 *qosiya* と呼ばれる行政単位に分割されていた。盟長と旗長とは、いずれも理藩院と皇帝によって任命されたモンゴル貴族であり、庫倫辦事大臣は駐防官として理藩院と外モンゴル東部2盟とをつなぐ司法・行政上の仕事を担っていた。また、庫倫辦事大臣には満洲大臣と蒙古大臣（以下、モンゴル大臣と呼ぶ）とがあり、仕事を分担していた。モンゴル大臣が地元のモンゴル貴族出身者であったのに対して、満洲大臣は北京から派遣されてきた旗人官僚であり、より強い権限を有していたと言われている。Сономдагва 1961: 19, 33–38, 岡 1992, 岡 2007, 佐藤 2009: 12, 24 等を参照。
- (2) 伝統中国及び清代のモンゴルにおいては明瞭な形の監禁刑が存在しなかったため、本稿で扱う監獄は、主として判決が下されるまで被疑者を収監しておくための未決監（拘置所）に近い機能を果たしていた。滋賀 1972: 101, 109–111, 太田 2015: 9–21 等を参照。
- (3) 「オドセルとナワーンの事件」については、萩原 2001, 萩原 2006: 111–122, 萩原 2019, 萩原 2020, 萩原 2024 等を参照。
- (4) ほぼ同時期に独立運動が展開されたチベット人やウイグル人が独立に失敗したのに対して、モンゴル人のみが独立に成功した背景には、ロシア・ソ連による援助等の外的要因以外にも、統一された法（清朝蒙古例）や行政機構（裁判、徴税、徴兵を担う統一的な機構、すなわち盟旗制度）の存在、統一された民族意識、など藩部側自体の持つ内部的要因が必ず存在していたはずだというのが、筆者の持論である。萩原 2009: 22–28 参照。
- (5) 萩原 2024 の執筆に当たり、佐藤憲行氏（上海復旦大学）、オランゴア氏（モンゴル国立大学）、ヤロスラフ・シュラトフ氏（早稲田大学）、青島陽子氏（北海道大学）、小長谷有紀氏（国立民族学博物館名誉教授）から多くのご教示を受けた。改めて謝意を表したい。

したところであるが、そこでは紙幅の関係上詳細な管理運営問題の解明を行うことができなかった。そこで本稿では、手始めとして同監獄における看守の詳しい勤務実態や被収監者の実例を可能な範囲内で明らかにしていきたい。また同監獄の経済的な運営実態に関しては別稿を準備中である。

近年、明清時代の中国本土地域における監獄の存在形態に関して、濱島 1984a, 濱島 1984b, 高遠 2000 等々多数の優れた研究が既に発表されている。その中でも太田 2015 は、清代中国における監獄内部の実態や犯罪者への矯正機構の創設など、法制史関連の詳しい社会史を解明した。それら中国法制史の研究成果と比較しつつ清王朝全域における法制史を解明していくためにも、フレー監獄における管理実態を解明していく意義は大きいであろう。

なお、本稿で使用する主要史料はモンゴル国立中央アルヒーフ（古文書館）所蔵の檔案（公文書）史料であり、その大部分は 2019 年 9 月に筆者が発見したものである。史料の引用に当たってはそのつど使用言語と文書番号を明記し、可能な限りローマ字転写と筆者自身による日本語訳を併記する。

第 1 章 フレー監獄に関する基礎的情報

第 1 節 フレー監獄の所在地

本章では先行研究に基づいて、現時点で解明されているフレー監獄の基礎的な情報を短く再確認しておきたい。フレーの都市史研究である佐藤 2009, 外モンゴルにおける清朝の役所とその財政・経済面を検討した頼 2020, 古写真や絵図を利用して近代のフレーを地理的に研究した堀田・渡邊・鈴木（編著）2022 等々主要な研究でも監獄への言及が全くないため、唯一の先行研究である萩原 2024 に基づいて叙述する。

まずは監獄の所在地から。フレー監獄の所在地を確定できる記録としては、ロシア人探検家ボズドネエフ（Позднеев）による 1892 年当時の訪問記録⁽⁶⁾、ロシア帝国政府が作成した 1860 年当時のフレーの実測地図「ロシア領事館に与えられた地所表示付ウルガ都市図」（ロシア連邦イルクーツクの国立アルヒーフ所蔵）、ノルウェー人実業家マーメン（Oscar Mamen）が 1918 年頃に撮影した監獄の写真（オスロ大学文化史博物館所蔵）、アメリカ人探検家アンドリュース夫妻（Roy Chapman Andrews, Yvette Borup Andrews）が 1919 年に撮影した監獄の写真（アメリカ自然史博物館所蔵）、Roy Chapman Andrews による 1919 年の英文旅行記⁽⁷⁾、大島清による 1920 年発行の『庫倫出張報告書』（東京外国語大学附属図書館所蔵）⁽⁸⁾、1880 年にモンゴル人画家バルガン（Balyan）によって描かれた絵図「イフ・フレー」（島村 2022: 69 に掲示）、1913 年にジュグデル（Jügder）によって描かれた絵図「ボグド・ハーンのフレー（ウルガ）」（島村 2022: 44-45 に掲示）等々が挙

(6) Позднеев 1898, vol. 1: 139-140. 東亜同文会編纂局による日本語訳であるボズドネエフ 1908: 185 も参照。ただし原文を確認の方が望ましい。

(7) アンドリュース夫妻については島村 2022: 151-155 等を参照。監獄の写真に関しては、堀田・渡邊・鈴木（編著）2022: 3 を参照。旅行記における記述は Andrews 1921: 87。

(8) 田中 1969 参照。

げられる。

以上の探検記・実測地図・写真・絵図という計 4 系統の記録の総合的な検討によって、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてフレー市街の南側郊外にモンゴル大臣衙門と軽犯罪者向けらしい拘置施設、同じく市街の南東側郊外に満洲大臣衙門と重罪犯向けの当該監獄とが存在していたことがわかる。この監獄はセルベ川の東岸付近にあった。また市街地から北東側に少し離れて存在していたイフ・シャビ（後述）専用の軽犯罪者向け監獄と見られる物を含めて、清末のフレーには合計 3 つの監獄があったのに対して、1911 年の独立後には合計 6 つに増えていたらしいこともわかっている。6 つの内訳としては、イフ・シャビ専用と重罪犯向けの監獄とはそのまま残り、最後のモンゴル大臣衙門付近にあった軽犯罪者向け監獄が、4 ハン部各々の管轄下に入って 4 つに分かれたものと考えられている。これら 4 つの監獄の詳細な所在地はなお不明である。

第 2 節 フレー監獄の形態

前記 4 系統の記録から、19 世紀末～20 世紀初頭において重罪犯向けのフレー監獄本体（被疑者収監施設の部分）には屋根がなく、二重の柵で囲まれていたことがわかっている。特に内側の柵は高く、縦に並べた木材の先端が脱獄防止用に鋭く尖らされていた。マーメンとアンドリュースの撮った写真では監獄の出入り口付近に管理棟らしき固定建築物があり、屋根はここだけに存在したようである。屋根がないので冬期の苛酷さは容易に想像できるが、その分、脱獄される可能性は元から高かったと言えるかもしれない。

またアンドリュースの前記旅行記によると、二重の柵の内側に、10 フィート（約 3 メートル）四方ほどの空間があり、長さ 4 フィート（約 1.2 メートル）、高さ 2.5 フィート（約 0.75 メートル）ほどの木製箱形独房がそこに積み重ねられていた。この箱形独房はマーメンによって写真撮影されていて、独房のふたが二箇所施錠されていたことや、中央部の小さな円形の穴から内外の様子をうかがえること、ここから腕を出すことも可能であったことなどが分かる。

一方、被収監者の管理状況については、かろうじて Сономдагва 1961: 35–36 が滿蒙両大臣衙門の監獄に 19 世紀末から 20 世紀初めに「看守（харгалзсан түшмэл）1 名、その従卒と兵士（хөтөл ба хуяг）2 名」がいたとのみ述べているが、具体的に彼らがどういう方法で監獄を監視していたのかという点に関しては萩原 2024 以外全く研究がない。また、ポズドネエフは「人々がこの監獄を訪問することは難しくない。看守に近づいて数分話し合えば、収監者への施しを渡す許可を求めることができる。その際、看守にも施しを渡す必要があるのはもちろんのことである」と述べている⁽⁹⁾。さらに、ノルウェー人マーメンがイフ・シャビ用監獄内部の写真を撮っていることやアメリカ人アンドリュースが重罪犯向け監獄内部に入っていることから見ると、ポズドネエフの訪問した 1892 年と同様、1918–1919 年当時でも看守にながしかの賄賂を渡せば部外者が監獄内部に入ることや写真を撮ることも可能であった。

⁽⁹⁾ Позднеев 1898, vol. 1: 139–140 参照。

第3節 フレー監獄からの脱獄の事例

フレー監獄からの脱獄の事例は、萩原 2024 にて 2 件検討した。1 件目は強盗殺人犯オドセルの脱獄である。光緒 3 (1877) 年 10 月 14 日⁽¹⁰⁾に「オドセルとナワーンの事件」が起こった後、オドセルらはすぐ捕えられてフレーのエルデネ・シャンゾドバ衙門⁽¹¹⁾へと身柄が移され、裁判が始まる。その間、フレー監獄に監禁されていたオドセルは光緒 5 (1879) 年 5 月に脱獄し、理藩院からの命令で同年 9 月に大臣衙門が再捕獲担当者名を刑部と理藩院へ提出した。その際の指名手配の法的背景については萩原 2019 にて既に検証している。最終的にオドセルは、光緒 9 (1883) 年夏頃 (4月~6月) に無事再捕獲された⁽¹²⁾。これが萩原 2024 で扱った 1 件目の脱獄事例である。2 件目の事例は、本稿第 5 章にて再検討する。以上、フレー監獄からの脱獄はさほど珍しいことではなかった可能性が指摘されている。

第2章 光緒 5 (1879) 年における看守の勤務実態

第1節 光緒 5 年における監獄の管理記録

本章からこの監獄の看守たちの勤務実態を詳細に検証していきたい。筆者は、萩原 2024 でも少し利用したように、本監獄の管理実態を示す絶好の記録として、モンゴル国立中央アルヒーフ所蔵の縦長の冊子一冊 (Φ.H.M1, T.H.1, XH.1852) を発見した。この冊子には、光緒 5 (1879) 年 8 月 10 日から同年 12 月 29 日まで合計 137 日間にわたる同監獄の管理記録が、満蒙文混用の形で全 71 葉にまとめられている。基本的に各葉の表に 1 日分、裏に次の 1 日分が手書きで記録されているが、何故かただ 9 月 30 日の記録のみが抜け落ちている。あるいは被取監者がいなかったという可能性も想定し得る。冊子の 3a⁽¹³⁾から 30b までの間のみがモンゴル文で、その前後は全て満洲文で表記されている。また 2a, 2b の満洲文と 3a, 3b のモンゴル文とは全く同内容であり、第 2 葉の満文を第 3 葉で蒙文に訳した形となっているが、これ以外に重複部分はない。どの日も記述されている内容に大差ないため、ここでは表紙に相当する 1a 部分、使用言語が交代する 2b, 3a と 30b, 31a 部分のみを以下に引用、例示する。1b は空白である。

Φ.H.M1, T.H.1, XH.1852 の満蒙文混交冊子⁽¹⁴⁾

1a1 ambasai harangga gindana de horiha hūlhasa be inenggidari
大臣たちの所属の 監獄 に監禁した盗賊たちを 毎日

⁽¹⁰⁾ 本稿での年月日は全て清代の旧暦をそのまま表記する。

⁽¹¹⁾ エルデネ・シャンゾドバは、フレーの大化身ラマ (大活仏)、ジェブツンダンバ・ホトクトの下でその隷属民イフ・シャビたちの賦役や裁判等を管理していたモンゴル人官僚であり、その衙門がフレーにあった。ただし前述のウルガ都市図ではこの衙門の位置は記録されていない。今後の検討課題としておきたい。外モンゴルの東部 2 盟 (ヘルレン・バルス・ホト盟とハン・オール盟) とこのイフ・シャビたちとを管理する上司が庫倫辦事大臣であった。

⁽¹²⁾ Φ.H.M58, T.H.1, XH.235, 80b-81b の公文書による。

⁽¹³⁾ 以下、本稿では公文書の葉数と行数をアラビア数字で、表裏の別を「a, b」で表示する。

⁽¹⁴⁾ 以下、本稿ではモンゴル文は [グリュンベック](#) 方式、満洲文は [メーレンドルフ](#) 方式で転写する。Gronbech

- 1a2 baicame tuwafi, yooselame akdulame boolaha be ejehe debtelin,
調べて見て、施錠し 確認して報告したことを記録した冊子。
…… (1b, 2a を略) ……
- 2b1 juwan de, ambasai yamun i bithesi kisiktoktahū, erdeni šangjotba i
(光緒 5 年 8 月)⁽¹⁵⁾日に、大臣たちの衙門の書記ヒシクトクトホ、エルデネ・シャンゾドバ
- 2b2 yamun i jaisang haswacir, harangga uherileme kadalara
衙門のザイサンであるハスオチル、所属の 総 管理
- 2b3 taiji gombujab se, be uhei gindana de horiha
台吉ゴンボジャブら、我々が皆で監獄 に監禁した
- 2b4 hūlhasai sangse guwangse be baicame tuwafi, baisin
盗賊たちの手枷、足枷 を調べて 見て、(監獄の) 固定
- 2b5 boo hashan be gemu akdulame yooselahangge yargiyan,
家屋、柵 を全て 確認して施錠したことは本当である。
(以上満洲文、次葉からモンゴル文へと交代)
- 3a1 badaryultu törü-yin tabuduyar on naiman sarayin arban-du yamun-u
光 緒 5 年 8 月 10 日に 衙門 の
- 3a2 bičigeči udumji, jegün jisiyan-ača yaryaysan orulan kögegeči nerindasi,
書記 オドムジ、東の輪番⁽¹⁶⁾から派出した 驍騎校 ネリンダシ、
- 3a3 qariyatu yerüngkūi tayiji γombujab-nar bide, бүгүдегер гиндан-ду qoriysan
所属の 総 台吉ゴンボジャブら我々が皆で 監獄に 監禁した
- 3a4 qulayai-nar-i bayičayan üjejü bayising ger qasiy-a-i čöm
盗賊たちを調べて 見て、固定 家屋、柵を 全て
- 3a5 batulan čoojilaysan anu ünen,
確認して施錠したことは本当である。
…… (中 略) ……
- 30b1 sineyin jiryuyan-du sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči idamjab šabi yamun-u
(光緒 5 年 10 月)初 6 日 に 大臣殿たちの 衙門の書記ヤダムジャブ、シャビ衙門⁽¹⁷⁾の
- 30b2 kölügči sereyiter, qariyatu yerüngki tayiji γombunarin-nar bide бүгүдегер гиндан-дур
馬係セレーテル、所属の総 台吉ゴンボナリンら我々が皆で 監獄 に

and Krueger 1955 及び von Möllendorff 1892 を参照。転写文・訳文中の〔 〕は原写本で行の左側に追加挿入された語句を示す、訳文中の（ ）内部は訳者による補足である。また、モンゴル人の人名綴りの表記に際して、Дариймаа 1986 及び Сэржээ 1991 を参照した。

(15) 10 日という表記は誤り。正しくは 11 日である。この後 3a の部分に「10 日」という日付が現れるが、ここでは 2a と 3a とが同じ 8 月 10 日、2b と 3b とが同じ 8 月 11 日の記録なのである。

(16) 外モンゴル東部二盟の内の東側に当たるツェツェン・ハン部の輪番衙門のこと。

(17) イフ・シャビを管理するエルデネ・シャンゾドバ衙門のこと。

30b3 qoriysan qulayai-narun yaba ginji-i bayičayan üjeju bayising ger qasiy-a-yi
監禁した盗賊たちの手枷、鎖を調べて 見て、固定 家屋、柵 を

30b4 batulan čoojilaysan anu ünen,
確認して施錠したことは本当である。

(以上モンゴル文、次葉から満洲文へと交代)

31a1 ice nadan de ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai, wargi idui jalan
(光緒 5 年 10 月)初 7 日に大臣たちの衙門の書記ウルジンナムスライ、西の輪番⁽¹⁸⁾の参領

31a2 sirbadzar, harangga uherileme kadalara taiji gombucerin sa be uhei
シルバザル、所属の総 管理 台吉ゴンボツェリンら我々が皆で

31a3 gindana de horiha hūlhasai sangse guwangse be baicame tuwafi
監獄 に監禁した盗賊たちの手枷、足枷 を 調べて見て

31a4 baisin boo hashan be gemu akdulame yooselahangge yargiyan,
固定 家屋、柵 を全て 確認して施錠したことは本当である。(以下略)

第二節 光緒 5 年における管理記録の定型書式

光緒 5 年におけるフレー監獄のこの管理記録から、毎日の記録の典型的な書式を日本語訳の形で抽出すると、以下のようになろう。

(各月の最初の記録のみ年月を記述) □日に、1 人目の看守の所属と人名、2 人目の所属と人名、所属の総タイジ3 人目の人名ら、我々が皆で監獄に監禁した盗賊たちの手枷、足枷(鎖)を調べて見て、固定家屋、柵を全て確認して施錠したことは本当である。

このように監獄の点検者、すなわち看守はほぼ毎日 3 名であった。モンゴル文も満洲文もほぼ同じ内容であるが、3 人目の「総タイジ」が満洲文でのみ「総管理タイジ」となる。3 名の内訳と勤務状況は次節で検討しよう。

次に、萩原 2024 でも少し触れたように、点検の対象物がここからわかる。モンゴル文の記録では 3a, 3b, 4a (8 月 10-12 日分)を除いて常に「盗賊たちの手枷、鎖を調べて見て」と表記されている⁽¹⁹⁾が、満洲文部分では常に「盗賊たちの手枷、足枷を調べて見て」と表記されているため、モンゴル文で言う鎖(ginji)とは足枷のことであって、収監者が手枷と足枷を両方付されていたことが確認できる。マーメンの撮影したイフ・シャビ専用監獄内部の写真(萩原 2024: 46)を見ると収監者の足や首にも鎖らしきものが見えるので、この重罪犯向け監獄でも存在していて、モンゴル文ではそれを「鎖」(ginji)と表記し、満洲文では「足枷」(guwangse)と表記しているようである。また、それらの枷が鍵付きであったかどうかは書かれていないが、萩原 2024: 64-66 の検討から見ると、鍵付きではない単なる鎖であった可能性が高そうである。

次に施錠対象物としてのモンゴル語 bayising ger とは監獄の「固定家屋」を指しており、それが

⁽¹⁸⁾ 外モンゴル東部二盟の内の西側に当たるトシェート・ハン部の輪番衙門のこと。

⁽¹⁹⁾ 3a, 3b, 4a では「盗賊たちを調べて見て」と表記されている。

満洲語に借用・翻訳されて *baisin boo* と表記されたようである。前述したアンドリュースの記述やバルガンの絵図では監獄に屋根が一切なかったようにも思われるが、マーメンとアンドリュースの写真ではいずれも出入り口付近に管理棟らしき固定家屋が写っている。したがってこの「固定家屋」とはその管理棟を含めた出入り口（門）に対する表現かと思われる。

以上、看守 3 名による毎日の点検の対象物は被収監者たちの手枷、足枷（鎖）、そして監獄の固定家屋（門）の施錠、柵であった。ただしこの記録簿には出てこないが、前述のように被収監者は、少なくとも夜間は木製箱形独房に 1 人ずつ収容されていて、この箱も施錠されていたことが確認できる。この点は第 5 章にてもう一度検討したい。

第 3 節 光緒 5 年の記録における看守 3 名の内訳と勤務実態

この冊子は光緒 5（1879）年 8 月 10 日から同年 12 月 29 日までのフレイ監獄の管理状況と管理責任者名の記録である。毎日計 3 名の看守が、収監者の手枷・足枷・固定家屋・柵の確認と施錠点検を行い、これを克明に記録していた。この合計 137 日間の看守（点検者）名を一覧表にまとめると、表 1 の通りである。

表 1 では満蒙両言語での人名表記を元の言語別の綴り字で区別して書いているが、本章での検討では本来の人名であるモンゴル語表記に統一した形で検討していきたい。まず看守 3 名の内、1 人目に必ず大臣衙門の書記の名が日替わりで書かれている。職名は基本的に満洲語では「*ambasai yamun i bithesi* 大臣たちの衙門の書記」、モンゴル語では「*sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči* 大臣殿たちの衙門の書記」と表記されている。

表 1 を見ると、8 月 10 日から 9 月 19 日までは、*udumji*, *kisigtoytaqu*, *žamsarangjab*, *čembel*, *tödübdorji*, *darmajab* という計 6 名の書記が定期的にローテーションを組んで 1 人目の看守を務めている。清末に辦事大臣を務めた三多の『庫倫奏議』（三多 2004（第 1 冊）：141. 頼 2020: 147 も参照）によれば大臣衙門の書記は常に 6 名いたようなので、全員が毎日 1 人ずつ交代で看守を務めていたということになるのか。9 月 20 日以降は、9 月 25 日の *kisigtoytaqu* のみを除いて、全く別系統の初出人名が並ぶ。大臣衙門の書記たちはいくつかのグループが数ヶ月交代の輪番で仕事を引き受けていたと思われるので、ちょうどこの 9 月 20 日から書記のメンバー全員が交代したものと思われる。20 日から 28 日までは、やや不規則ながらも 29 日以降とほぼ同じメンバーが点検しているため、過渡期であったと見なして良からう。9 月 29 日から 11 月 6 日までは、*idamjab*, *urjīngnamsarai*, *ubasi*, *böübei*, *gūngbayar*, *dolgarjab*, という 6 名の書記が完璧なローテーションを組んで 1 人目の看守を務めている⁽²⁰⁾。その後も 11 月 12 日から 11 月 23 日の間はやや不規則ではあるものの同じ 6 名で務め、11 月 24 日から 12 月 29 日までは、今度は *dolgarjab*, *urjīngnamsarai*, *idamjab*, *ubasi*, *böübei*, *gūngbayar* という順番で完璧なローテーションを組んでいる。

⁽²⁰⁾ この間なぜか 9 月 30 日分が抜けているが、書記のローテーションとしては順番通りになっているので、前述のように、被収監者がいなかったとかの可能性も想定し得る。

表 1 光緒 5 (1879) 年における看守の記録

葉数	月日	言語	看守 1	看守 2	看守 3
2a	8.10	Ma.	ambasai yamun i bithesi udumji	cecen han aiman ci kuren de tehe idu ci tucibuhe funde bošokü nerindasi	harangga uherileme kadalara taiji gombujab
2b	8.10(11)	Ma.	ambasai yamun i bithesi kisiktoktahü	erdeni šangjotba i yamun i jaisang haswacir	harangga uherileme kadalara taiji gombujab
3a	8.10	Mo.	yamun-u bičigeči udumji	jegün jisiyan-ača ɣaryaysan orulan kögegeči nerindasi	qariyatu yerüŋküi tayiji yombujab
3b	8.11	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči kisigtotytaqu	erden šangjudba-yin yamun-u jayisang qasvačir	qariyatu yerüŋküi tayiji yombujab
4a	8.12	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči jamsarangjab	barayun jisayan-u jakiruyči čebegvačir	qariyatu yerüŋküi tayiji yombujab
4b	8.13	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči čembel	jegün jisiyan-ača ɣaryaysan meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji yombujab
5a	8.14	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči tödübdorji	erden šangjudba-yin yamun-ača ɣaryaysan tayiji amjildunui	qariyatu yerüŋküi tayiji yombujab
5b	8.15	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči darmajab	barayun jisayan-ača ɣaryaysan tayiji bičigeči nima	qariyatu yerüŋküi tayiji yombujab
6a	8.16	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči udumji	jegün jisiyan-ača ɣaryaysan meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji yombujab
6b	8.17	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči kisigtotytaqu	šangjudba-yin yamun-u jayisang dongduyjab	qariyatu yerüŋküi tayiji yombujab
7a	8.18	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči jamsarangjab	barayun jisayan-u jakiruyči čebegvačir	qariyatu yerüŋküi tayiji yombujab
7b	8.19	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči čembel	jegün jisiyan-u meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji yombujab
8a*	8.20	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči tödübdorji	erden šangjudba-yin yamun-ača ɣaryaysan jayisang qasvačir	qariyatu yerüŋküi tayiji odqun
8b	8.21	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči darmajab	barayun jisayan-ača ɣaryaysan tayiji bičigeči nima	qariyatu yerüŋküi tayiji odqun
9a	8.22	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči udumji	jegün jisiyan-u meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji odqun
9b	8.23	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči kisigtotytaqu	šabi yamun-u tayiji donui	qariyatu yerüŋküi tayiji odqun
10a	8.24	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči jamsarangjab	barayun jisayan-u jakiruyči čebegvačir	qariyatu yerüŋküi tayiji odqun
10b	8.25	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči čembel	jegün jisiyan-u meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji odqun
11a	8.26	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči tödübdorji	erdeni šangjudba-yin yamun-ača ɣaryaysan jayisang qasvačir	qariyatu yerüŋküi tayiji odqun
11b	8.27	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči darmajab	barayun jisayan-ača ɣaryaysan tayiji bičigeči nima	qariyatu yerüŋküi tayiji odqun
12a	8.28	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči udumji	jegün jisiyan-u meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji odqun
12b	8.29	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči kisigtotytaqu	šabi yamun-u tayiji donui	無し
13a	9.1	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči jamsarangjab	barayun jisayan-ača ɣaryaysan tayiji bičigeči nima	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
13b	9.2	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči čembel	jegün jisiyan-u meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
14a	9.3	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči tödübdorji	erdeni šangjudba-yin yamun-ača ɣaryaysan jayisang dongduyjab	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
14b	9.4	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči darmajab	barayun jisayan-ača ɣaryaysan tayiji bičigeči nima	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
15a	9.5	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči udumji	jegün jisiyan-u meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
15b	9.6	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči kisigtotytaqu	šabi yamun-u kölügeči dongduyborji	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
16a	9.7	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči jamsarangjab	barayun jisayan-ača ɣaryaysan tayiji bičigeči nima	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
16b	9.8	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči čembel	jegün jisiyan-u meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
17a	9.9	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči tödübdorji	erdeni šangjudba-yin yamun-ača ɣaryaysan kölügeči dongduyborji	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
17b	9.10	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči darmajab	barayun jisayan-ača ɣaryaysan tayiji bičigeči nima	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
18a	9.11	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči udumji	jegün jisiyan-u meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
18b	9.12	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči kisigtotytaqu	šabi yamun-u tayiji dayba	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
19a	9.13	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči jamsarangjab	barayun jisayan-ača ɣaryaysan tayiji bičigeči nima	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
19b	9.14	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči čembel	jegün jisiyan-u meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
20a	9.15	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči tödübdorji	šabi yamun-u tayiji dayba	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
20b	9.16	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči darmajab	barayun jisayan-ača ɣaryaysan tayiji bičigeči nima	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
21a	9.17	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči udumji	jegün jisiyan-u meyren sikür	qariyatu yerüŋküi tayiji vangčuy
21b	9.18	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči kisigtotytaqu	šabi yamun-u tayiji dayba	qariyatu yerüŋküi tayiji yombunarin
22a	9.19	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči jamsarangjab	barayun jisayan-ača ɣaryaysan tayiji bičigeči nima	qariyatu yerüŋküi tayiji yombunarin
22b	白紙				
23a	9.20	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči ubasi	jegün jisayan-ača ɣaryaysan tayiji bičigeči gangjunvačir	qariyatu yerüŋküi tayiji yombučerin
23b	9.21	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči böübei	erdeni šangjudba-yin yamun-ača ɣaryaysan kölügeči dongduyborji	qariyatu yerüŋküi tayiji yombunarin
24a	9.22	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči urjingnamsarai	barayun jisayan-ača ɣaryaysan tayiji jalan sirbajar	qariyatu yerüŋküi tayiji yombunarin

表 1 光緒 5 (1879) 年における看守の記録

葉数	月日	言語	看守 1	看守 2	看守 3
24b	9.23	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči gūngbayar	Jegūn Jisiyan-ača ʔaryaysan tayiji bičigeči tōrer	qariyatu yerlūngkei tayiji yombunarin
25a	9.24	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči čaydurjab	šabi yamun-u tayiji dayba	qariyatu yerlūngkei tayiji yombučerin
25b	9.25	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči kisigtortyaqu	barayun Jisayan-u Janggi čedeb	qariyatu yerlūngkei tayiji yombunarin
26a	9.26	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči ubasi	Jegūn Jisiyan-u tayiji duyar	qariyatu yerlūngkei tayiji yombunarin
26b	9.27	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči bōūbei	šabi yamun-u tayiji dayba	qariyatu yerlūngkei tayiji yombučerin
27a	9.28	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči gūngbayar	barayun Jisayan-ača ʔaryaysan tayiji Jalañ siribajar	qariyatu yerlūngkei tayiji yombunarin
27b	9.29**	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči idamjab	Jegūn Jisiyan-u Jakiruyči tegūsqudatu	qariyatu yerlūngkei tayiji yombučerin
28a	10.1	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči urjingnamsarai	erdeni šangjudba-yin yamun-ača ʔaryaysan kōlūgči dongduytorji	qariyatu yerlūngkei tayiji yombučerin
28b	10.2	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči ubasi	barayun Jisayan-u Janggi čedūb	qariyatu yerlūngkei tayiji yombunarin
29a	10.3	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči bōūbei	Jegūn Jisiyan-u tayiji duyar	qariyatu yerlūngkei tayiji yombučerin
29b	10.4	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči gūngbayar	šabi yamun-u tayiji dayba	qariyatu yerlūngkei tayiji yombunarin
30a	10.5	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči dolgarjab	barayun Jisayan-u Jalañ siribayar	qariyatu yerlūngkei tayiji yombunarin
30b	10.6	Mo.	sayid-ud tan-u yamun-u bičigeči idamjab	šabi yamun-u kōlūgči sereitar	qariyatu yerlūngkei tayiji yombunarin
31a	10.7	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	wargi idui Jalañ sirbadzar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
31b	10.8	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci, tucibuhe taiji, dogar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
32a	10.9	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	erdeni šangjotba i yamun i kulukci sereidar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
32b	10.10	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	wargi idui Jalañ siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
33a	10.11	Ma.	ambasai yamun i bithesi tolgarjab	dergi idui taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
33b	10.12	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	šabi yamun i kulukci sereitar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
34a	10.13	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	wargi idui Janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
34b	10.14	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
35a	10.15	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	erdeni šangjotba i yamun i kulukci sereidar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
35b	10.16	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	wargi idui Jalañ siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
36a	10.17	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idui jakiruci tegushūbatu	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
36b	10.18	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	šabi yamun i kulukci sereitar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
37a	10.19	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	tusiyetu han aiman i idui baci tucibuhe Janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
37b	10.20	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
38a	10.21	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i kulukci sereitar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
38b	10.22	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	wargi idui Jalañ siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
39a	10.23	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	cecen han aiman i idui baci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
39b	10.24	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	šabi yamun i kulukci sereitar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
40a	10.25	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	wargi idui baci tucibuhe Janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
40b	10.26	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
41a	10.27	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i kulukci sereitar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
41b	10.28	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	tusiyetu han aiman i idui baci tucibuhe Jalañ siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
42a	10.29	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idui jakiruci tegushūbatu	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
42b	11.1	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	šabi yamun i kulukci sereitar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
43a	11.2	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	wargi idui baci tucibuhe Janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
43b	11.3	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci tucibuhe jakiruci tegushūbatu	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
44a	11.4	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i taiji dasidongdob	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
44b	11.5	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	wargi idui Jalañ siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
45a	11.6	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idui jakiruci tegushūbatu	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
45b	11.7	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	šabi yamun i kulukci sonomcerin	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
46a	11.8	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	wargi idui Janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
46b	11.9	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci, tucibuhe taiji, dugar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
47a	11.10	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i kulukci sonomcerin	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
47b	11.11	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	wargi idui Jalañ siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
48a	11.12	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idui baci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
48b	11.13	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	šabi yamun i kulukci sonomcerin	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
49a	11.14	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	wargi idui Janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
49b	11.15	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci tucibuhe jakiruci tegushūbatu	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
50a	11.16	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i taiji dasidondob	harangga uherileme kadalara taiji gombucerin
50b	11.17	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	wargi idui Jalañ siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji othun
51a	11.18	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idui baci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji othun
51b	11.19	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	šabi yamun i kulukci sonomcerin	harangga uherileme kadalara taiji othun
52a	11.20	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	wargi idui Janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji othun

表 1 光緒 5 (1879) 年における看守の記録

葉数	月日	言語	看守 1	看守 2	看守 3
52b	11.21	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci tucibuhe jakirucci tegushūbatu	harangga uherileme kadalara taiji othun
53a	11.22	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i taiji dasidondub	harangga uherileme kadalara taiji othun
53b	11.23	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	wargi idui jalan siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
54a	11.24	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idui baci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
54b	11.25	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	šabi yamun i kulucci sonomcerin	harangga uherileme kadalara taiji donduk
55a	11.26	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	wargi idui janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji donduk
55b	11.27	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
56a	11.28	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i taiji dasidondob	harangga uherileme kadalara taiji donduk
56b	11.29	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	wargi idui jalan siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
57a	11.30	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idu ci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
57b	12.1	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	šabi yamun i kulucci sonomcerin	harangga uherileme kadalara taiji donduk
58a	12.2	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	wargi idui janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji donduk
58b	12.3	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci tucibuhe jakirucci tegushūbatu	harangga uherileme kadalara taiji donduk
59a	12.4	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i taiji baldan	harangga uherileme kadalara taiji donduk
59b	12.5	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	wargi idui jalan siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
60a	12.6	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idui baci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
60b	12.7	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	šabi ci tucibuhe kulucci dasiceren	harangga uherileme kadalara taiji donduk
61a	12.8	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	wargi idui janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji donduk
61b	12.9	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci tucibuhe jakirucci tegushūbatu	harangga uherileme kadalara taiji donduk
62a	12.10	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i taiji baldan	harangga uherileme kadalara taiji donduk
62b	12.11	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	wargi idui jalan siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
63a	12.12	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idu ci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
63b	12.13	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	šabi ci tucibuhe kulucci dasiceren	harangga uherileme kadalara taiji donduk
64a	12.14	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	wargi idui janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji donduk
64b	12.15	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci tucibuhe jakirucci tegushūbatu	harangga uherileme kadalara taiji donduk
65a	12.16	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i taiji baldan	harangga uherileme kadalara taiji donduk
65b	12.17	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	wargi idui jalan siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
66a	12.18	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idu ci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
66b	12.19	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	šabi ci tucibuhe kulucci dasiceren	harangga uherileme kadalara taiji donduk
67a	12.20	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	wargi idui janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji donduk
67b	12.21	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui baci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
68a	12.22	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i taiji baldan	harangga uherileme kadalara taiji donduk
68b	12.23	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	wargi idui jalan siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
69a	12.24	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idu ci tucibuhe taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
69b	12.25	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	šabi kulucci dasiceren	harangga uherileme kadalara taiji donduk
70a	12.26	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	wargi idui janggin cedub	harangga uherileme kadalara taiji donduk
70b	12.27	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	cecen han aiman i idui taiji dugar	harangga uherileme kadalara taiji donduk
71a	12.28	Ma.	ambasai yamun i bithesi buobai	šabi yamun i taiji baldan	harangga uherileme kadalara taiji donduk
71b	12.29	Ma.	ambasai yamun i bithesi gūngbayar	wargi idui jalan siribadzar	harangga uherileme kadalara taiji donduk

*末尾に 8 月 21 日の 1 行目がある。 **9 月 30 日が抜けている。

すなわち、1 人目の看守は大臣衙門の書記が 6 名でローテーションを組んで毎日 1 人ずつ交代で務めるというのが基本であったと言えよう。したがって毎日この記録を記入したのがこの書記であったことはほぼ確実であろう。そう考えると、確かに毎日筆跡は異なっている。ただどの日の記録を誰が記入したとまで確言できるほど明瞭な筆跡の違いは見られない。

次に 2 人目の看守には、「東方の輪番」の官員、「西方の輪番」の官員、エルデネ・シャンゾドバ衙門のザイサンカタイジという 3 系統のいずれかの者がやはりローテーションを組んで名を連ねている。例えば「jegün jisiyan-ača yaryaysan orulan kögegçi 東方の輪番から派出した驍騎校」とはツェツェン・ハン部盟長衙門のフレーでの輪番（出張所）の官員であり、「barayun jasiyan-u jakiruyçi 西方の輪番の管旗（章京）」とはトシェート・ハン部盟長衙門のフレーでの輪番（出張所）

の官員である。「erdeni šangjudba-yin yamun-u jayisang エルデネ・シャンゾドバ衙門のザイサン」とはイフ・シャビを管理する当該衙門の官員であり、「šabi yamun-u tayiji シャビ衙門のタイジ」も同じエルデネ・シャンゾドバ衙門の台吉を略称しているわけである。外モンゴル東部にあるこの両盟と、イフ・シャビを管理するエルデネ・シャンゾドバ衙門という計 3 つの行政単位を管轄することが庫倫辦事大臣衙門の主要な仕事だったので、その 3 者の代表が輪番で 2 人目の看守を毎日務めていたというわけである。

表 1 を見ると、8 月 10 日から 10 月 5 日までは、ツェツェン・ハン部盟長衙門出張所の官員、エルデネ・シャンゾドバ衙門の官員、トシェート・ハン部盟長衙門出張所の官員という順番で規則的に看守を務めている。10 月 6 日にツェツェン・ハン部盟長衙門を抜かしてエルデネ・シャンゾドバ衙門の官員が務めた後は、12 月 29 日まで元通りの順番でローテーションが組まれている。

3 つの衙門各々から出てきた官員たちの名前を見ると、同じ人物が 3 日おきに継続して看守を務めている例もかなり見受けられるが、表 1 では同じ人物が務めるのは最長で 12 回程度、つまり 3 日に 1 度を最長 1 ヶ月余り続けたということになる。

それに対して、3 人目の看守は「所属の総（管理）タイジ」と表記される人物がしばしば数十日間にも渡って毎日名を連ねている。例えばゴンボツェリンは、10 月 7 日から 11 月 16 日までまる 1 ヶ月以上の長きにわたって毎日 3 人目の看守を務めている。同じくドンドクは 11 月 23 日から 12 月 29 日までこれもまる 1 ヶ月以上の長きにわたって毎日 3 人目の看守を務めている。「所属の (Ma. harangga / Mong. qariyatu)」と表記されていることが何を意味するのか、まことに残念ながらここではまだ明言できないが、被取監者の出身地である盟やシャンゾドバ衙門から大臣衙門に派遣されてきている官員が選定されて 3 人目の看守を務めていたという可能性が考えられよう。詳細は将来への課題としておきたい。

第 3 章 光緒 8 (1882) 年における看守 3 名の内訳と勤務実態

続いて、筆者は光緒 8 (1882) 年 1 月 1 日から同年 7 月にかけての同様の記録簿 (Φ.H.M1, T.H.1, XH.1911) も発見することができた。これもまた『大臣たちの所属の監獄に監禁した盗賊たちを毎日調べて見て、施錠し確認して報告したことを記録した冊子』という前章の物と全く同じ名称を持つ冊子で、表紙部分を含めて計 25 葉からなる。光緒 8 (1882) 年 1 月 1 日から始まって 4 月 7 日まで、こちらはほぼ 1 葉に 4 日分、時に 6 日分の管理記録が手書きで書き込まれている。何故か最後の方の 21a に、4 月 7 日の記録に続いて突然 7 月 1 日と 2 日の分とが小さめの文字で書き込まれ、21b には (7 月) 3 日から 7 日までの分が小さめの文字で書き込まれている。4 月から 7 月まで飛んでいる理由は不明であるが、被取監者がこの間 1 人もいなかったという可能性もあろう。それ以外に抜けている日はない。使用言語は全て満洲語である。さらに 2a から 11a まで朱筆による書き込みも見られ、単語を一つずつ確認するかのようにな朱筆で上から印を付けたり、その日の記録の後に日付けのみを朱筆でもう一度書き加えたりしている。朱筆の意図は今の所不明だが、何らかの校正作業であったのかもしれない。煩雑さを避けるためにこれも最初の部分のみ引用例

示しておきたい。

Φ.H.M1, T.H.1, XH.1911 の満文冊子

- 1a1 ambasai harangga gindana de horiha hūlhasa be inenggidari
大臣たちの所属の 監獄 に 監禁した盗賊たちを毎日
- 1a2 baicame tuwafi, yooselame akdulame boolaha be ejehe debtelin
調べて 見て, 施錠し 確認して報告したことを記録した冊子.
- 2a1 badarangga doro i jakūci aniya, aniya biya ice de
光 緒 8 年 正 月 1 日に
- 2a2 ambasai yamun i bithesi manglaijab, šabi ci tucibuhe taiji
大臣たちの衙門の書記マンライジャブ, シャビから派出したタイジ
- 2a3 baling, harangga uherileme kadalara daruga purbujal se uhei
バリン, 所属の 総 管理 長プレブジャルらが皆で
- 2a4 gindana de horiha hūlhasai sangse guwangse be baicame
監獄 に 監禁した盗賊たちの手枷, 足枷 を調べて
- 2a5 tuwafi baisin boo hashan be akdulame yooselahangge yargiyan
見て, 固定家屋, 柵を 確認して 施錠したことは本当である.

この記録の書式は、前章で述べた光緒 5 (1879) 年分の冊子とほぼ同じであって、看守 3 名による手枷・足枷・固定家屋・柵の確認と施錠点検がその後も毎日行われていて、このような冊子に毎日書き込まれていたらしいことが分かる。前章の例と同様に看守 3 名の順番は、まず 1 人目が大臣衙門の書記、2 人目はツェツェン・ハン部盟長衙門、トシェート・ハン部盟長衙門、エルデネ・シャンゾドバ衙門という計 3 衙門の官員が交代で務めている。そして 3 人目はやはり「所属の総管理長」と表記され、数十日間、同一人物が名を連ねている。この記録簿の看守名を一覧表にまとめたのが表 2 である。

表 2 で 1 人目の看守を見ると、1 月 1 日から 3 月 29 日まで基本的に manglaijab, nimawacir, dembereldorji, tuwanjab, damdindorji, nerinwangcuk という 6 名の大臣衙門書記がこの順番で毎日 1 人ずつ 1 人目の看守を務めていた。時々 manglaijab というくずれた綴りや demberel, damdin という省略形が見られる。1 月 15 日までの期間に若干の順番の異動が見られることを除けば、基本的にこのローテーション通りに進んだと言って良い。

その後、4 月 1 日から 4 月 7 日までは kesiktoktahū, ubasi, urjingnamsarai, baldorji, dolgarjab, cerintoktahū という全く別の顔ぶれの 6 名が現れる。よく見るとその 6 名の内の ubasi, urjingnamsarai, dolgarjab の 3 名は前章で取り上げた光緒 5 年 9 月 29 日から 12 月 29 日にかけての 6 名中の 3 名と同じである。すなわちこの 3 名は光緒 5 年当時から同じ書記の輪番グループに所属していた可能性が高い。さらに 7 月 1 日から 7 月 7 日までは udumji, tukcijab, jamsaran, idamjab, tudubdorji, dolgarjab というまた別の 6 名が現れ、この内の udumji と idamjab は光緒 5 年の表 1 にも登場する。もちろん同名別人の書記がいた可能性もあろうが、基本的に書記たちの輪番グループは、時々顔

表2 光緒8(1882)年における看守の記録

葉数	月日	言語	看守 1	看守 2	看守 3
2a	1.1	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi ci tucibuhe taiji baling	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
2a	(1.2)	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
2b	(1.3)	Ma.	ambasai yamun i biciyeci nimawacir	dergi itui janggin boyanghütuk	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
2b	(1.4)	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i taiji baling	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
3a	(1.5)	Ma.	ambasai yamun i biciyeci damdin	wargi idu ci tucibuhe janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
3a	(1.6)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
3b	(1.7)	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi i kulugci dongduk	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
3b	(1.8)	Ma.	ambasai yamun i bithesi dembereldorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
4a	(1.9)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nimawacir	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
4a	(1.10)	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i kulugci dongduk	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
4a	(1.11)	Ma.	ambasai yamun i bithesi damdindorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
4b	(1.12)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
4b	(1.13)	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi i kulugci dongduk	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
4b	(1.14)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nimawacir	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
5a	(1.15)	Ma.	ambasai yamun i bithesi dembereldorji	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga purbujal
5a	(1.16)	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i kulugci dongduk	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
5b	(1.17)	Ma.	ambasai yamun i bithesi damdingdorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
5b	(1.18)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
5b	(1.19)	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi i kulugci dongduk	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
6a	(1.20)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nimawacir	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
6a	(1.21)	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
6b	(1.22)	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i kulugci dongduk	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
6b	(1.23)	Ma.	ambasai yamun i bithesi damdindorji	wargi idu ci tucibuhe janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
6b	(1.24)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idu ci tucibuhe taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
7a	(1.25)	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi i kulugci dongduk	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
7a	(1.26)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nimawacir	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
7a	(1.27)	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
7b	(1.28)	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i kulugci taiji ratna	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
7b	(1.29)	Ma.	ambasai yamun i bithesi damdindorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
7b	2.1	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcok	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
8a	(2.2)	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi i kulugci dongduk	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
8a	(2.3)	Ma.	ambasai yamun i biciyeci nimawacir	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
8b	(2.4)	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
8b	(2.5)	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi ci tucibuhe jaisang jamsaran	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
8b	(2.6)	Ma.	ambasai yamun i bithesi damdindorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
9a	(2.7)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
9a	(2.8)	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi i taiji oidub	harangga uherileme kadalara daruga wacir
9a	(2.9)	Ma.	ambasai yamun i biciyeci nimawacir	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
9b	(2.10)	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga jamsaran
9b	(2.11)	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i kulugci seireitar	harangga uherileme kadalara daruga wcir
9b	(2.12)	Ma.	ambasai yamun i bithesi damdindorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir*
10a	(2.13)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
10a	(2.14)	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi i jaisang jamsaran	harangga uherileme kadalara daruga wacir
10a	(2.15)	Ma.	ambasai yamun i biciyeci nimawacir	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
10b	(2.16)	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
10b	(2.17)	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i taiji oidub	harangga uherileme kadalara daruga wacir
11a	(2.18)	Ma.	ambasai yamun i biciyeci damdindorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
11a	(2.19)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
11b	(2.20)	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi i jaisang jamsaran	harangga uherileme kadalara daruga wacir
11b	(2.21)	Ma.	ambasai yamun i biciyeci nimawacir	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
11b	(2.22)	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
12a	(2.23)	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i taiji oidub	harangga uherileme kadalara daruga wacir
12a	(2.24)	Ma.	ambasai yamun i biciyeci damdindorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
12b	(2.25)	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
12b	(2.26)	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi ci tucibuhe kulugci seireitar	harangga uherileme kadalara daruga wacir
13a	(2.27)	Ma.	ambasai yamun i biciyeci nimawacir	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
13a	(2.28)	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
13b	(2.29)	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi ci tucibuhe jaisang jamsaran	harangga uherileme kadalara daruga wacir

表 2 光緒 8 (1882) 年における看守の記録

葉数	月日	言語	看守 1	看守 2	看守 3
13b	(2),30	Ma.	ambasai yamun i biciyeci damdindorji	wargi idui biciyeci dasinima	harangga uherileme kadalara daruga wacir
13b	3.1	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idui baci tucibuhe taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
14a	(3),2	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi ci tucibuhe taiji jirgal	harangga uherileme kadalara daruga wacir
14a	(3),3	Ma.	ambasai yamun i bithesi nimawacir	wargi idui biciyeci dasinima	harangga uherileme kadalara daruga wacir
14a	(3),4	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
14b	(3),5	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i taiji jirgal	harangga uherileme kadalara daruga wacir
14b	(3),6	Ma.	ambasai yamun i biciyeci damdindorji	wargi idui biciyeci dasinima	harangga uherileme kadalara daruga wacir
14b	(3),7	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
15a	(3),8	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi ci tucibuhe taiji jirgal	harangga uherileme kadalara daruga wacir
15a	(3),9	Ma.	ambasai yamun i biciyeci nimawacir	wargi idui biciyeci dasinima	harangga uherileme kadalara daruga wacir
15b	(3),10	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
15b	(3),11	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi ci tucibuhe taiji jirgal	harangga uherileme kadalara daruga wacir
16a	(3),12	Ma.	ambasai yamun i biciyeci damdindorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
16a	(3),13	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idu ci tucibuhe taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
16b	(3),14	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi ci tucibuhe taiji jirgal	harangga uherileme kadalara daruga wacir
16b	(3),15	Ma.	ambasai yamun i biciyeci nimawacir	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
16b	(3),16	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
17a	(3),17	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i taiji jirgal	harangga uherileme kadalara daruga wacir
17a	(3),18	Ma.	ambasai yamun i biciyeci damdindorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
17b	(3),19	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idui baci tucibuhe taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
17b	(3),20	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi ci tucibuhe taiji jirgal	harangga uherileme kadalara daruga wacir
18a	(3),21	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
18a	(3),22	Ma.	ambasai yamun i biciyeci nimawacir	dergi idui taiji taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
18b	(3),23	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i taiji jirgal	harangga uherileme kadalara daruga wacir
18b	(3),24	Ma.	ambasai yamun i bithesi damdindorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
19a	(3),25	Ma.	ambasai yamun i bithesi nerinwangcuk	dergi idui baci tucibuhe taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
19a	(3),26	Ma.	ambasai yamun i bithesi manglajab	šabi ci tucibuhe taiji jirgal	harangga uherileme kadalara daruga wacir
19b	(3),27	Ma.	ambasai yamun i bithesi demberel	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
19b	(3),28	Ma.	ambasai yamun i biciyeci nimawacir	dergi idui taiji dasidorji	harangga uherileme kadalara daruga wacir
19b	(3),29	Ma.	ambasai yamun i bithesi tuwanjab	šabi i taiji jirgal	harangga uherileme kadalara daruga wacir
20a	4.1	Ma.	ambasai yamun i biciyeci kesiktoktahū	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
20a	(4),2	Ma.	ambasai yamun i bithesi ubasi	dergi idui kundu cebekjab	harangga uherileme kadalara daruga wacir
20a	(4),3	Ma.	ambasai yamun i bithesi urjingnamsarai	šabi i kuluki mingjuur	harangga uherileme kadalara daruga wacir
20b	(4),4	Ma.	ambasai yamun i bithesi baldorji	wargi idui cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
20b	(4),5	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi idui kundu cebekjab	harangga uherileme kadalara daruga wacir
20b	(4),6	Ma.	ambasai yamun i bithesi cerintoktahū	šabi i taiji cerinjab	harangga uherileme kadalara daruga wacir
21a	(4),7	Ma.	ambasai yamun i biciyeci kesiktoktahū	wargi idui cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
21a	7.1	Ma.	ambasai yamun i biciyeci udumji	šabi i jaisang cende	harangga uherileme kadalara daruga wacir
21a	(7),2	Ma.	ambasai yamun i bithesi tukcijab	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
21b	(7),3	Ma.	ambasai yamun i bithesi jamsaran	dergi idui janggin (空白)	harangga uherileme kadalara daruga wacir
21b	(7),4	Ma.	ambasai yamun i bithesi idamjab	šabi ci tucibuhe jaisang cende	harangga uherileme kadalara daruga wacir
21b	(7),5	Ma.	ambasai yamun i bithesi tudubdorji	wargi idui janggin cagangkuu	harangga uherileme kadalara daruga wacir
21b	(7),6	Ma.	ambasai yamun i bithesi dolgarjab	dergi itui janggin (空白)	harangga uherileme kadalara daruga wacir
21b	(7),7	Ma.	ambasai yamun i bithesi udumji	šabi i taiji cerindondub	harangga uherileme kadalara daruga wacir

*jamsaran と書いて消した後、wacir と書き直している。

ぶれを変えつつ常に 6 名で構成されており、いくつかのグループが交代で書記の仕事を務めていたものと思われる。この問題も、詳細はなお将来への課題としておきたい。

次に表 2 では、1 人目の看守である書記 bithesi という満洲語単語を誤って biciyeci という口語風のモンゴル語綴り⁽²¹⁾で書いてしまっている日が散見される。書き誤った日の人名を見ると書記の

(21) モンゴル文語の標準的な綴りは bičigeči である。モンゴル口語の発音が бичээч ビチエーチであるために、

所にたいい nimawacir ニヤマーオチルか damdindorji ダムディンドルジ（ダムディンと略記された日もある）の名が見つかる。この2人が時々口語風のモンゴル語綴りで書いてしまうという癖を持っていたと仮定すると、大臣衙門の書記がその日の看守3名を代表してこの記録簿に記録を書き込んでいたという仮説の正しさを補強できるであろう。ちなみに光緒5年分の表1ではこの種の書き誤りや人名の略記は見られない。すなわち書記グループの優秀さの差異がここから垣間見えるわけである。

さて続いて2人目の看守は、1月1日から4月7日まで、エルデネ・シャンゾドバ衙門、トシェート・ハン部輪番衙門、ツェツェン・ハン部輪番衙門という順番で3衙門から毎日交代で官員が出て務めている。7月1日から7月7日まで、全く同じ順番で3衙門の官員が務めている。ただし、7月3日分と6日分とは「東の輪番の章京」とのみ記されていて、肝心の人名が抜け落ちている。この理由は不明であるが、第5章で検討する事例のように看守が2名しかいなかった日も確認できるので、あるいはこの2日間も出てきた看守2名のみで監視したのかもしれない。

3衙門から選ばれた官員の名前を確認していくと、同一人物が3日に1度のペースで長期間にわたって2人目の看守を務めている例が見られる。例えば、ツェツェン・ハン部輪番衙門の dasidorji ダシドルジは、1月6日から3月28日までほとんど3ヶ月間にわたって看守を務めているし、トシェート・ハン部輪番衙門の cagangkuu ツァガンフーも、1月2日から2月27日、3月12日から4月7日まで、さらには7月2日から7月5日まで、つまり1-2ヶ月連続で3日に1度の看守を務めている。エルデネ・シャンゾドバ衙門も含めて、光緒5年の表1に比べると、同一人物がより長期間にわたって2人目の看守を務める事例が見られるわけである。

最後に表2から3人目の看守の名を確認していくと、やはり光緒5年の例と同様、同一人物がかなり長期にわたって毎日看守を務めていたことがわかる。最も長い wacir オチルの場合は、2月11日から4月7日まで2ヶ月弱の間、毎日3人目の看守を務めている。その前の purbujal プレブジャルや jamsaran ジャムスランも半月あるいは20日もの長期間、毎日3人目の看守を務めていたことがわかる。

ここで表1と表2の検討結果をまとめて言うと、1人目の看守は基本的に6名の大臣衙門書記が1組のグループを組んでおり、6名中から毎日1人ずつというローテーションで看守を務め、看守3名を代表して毎日記録を付けていた。2人目の看守は3つの衙門から規則的に交代して代表が出てきており、3日に一度という勤務を1-2ヶ月連続して務める人物もいた。3人目の看守は、被収監者の出身地域等を考慮して大臣衙門から選出された可能性があり、同一人物が1-2ヶ月間毎日看守を務めた例も見られる。

無意識のうちに biciyeci と書いてしまったのであろう。書記によく見られる書き癖である。モンゴル文の中であれば誤りとは言えないが、ここでは満洲文の中なので、明らかな誤記である。

第4章 光緒8(1882)年1月における被収監者15名の内訳

前章で利用した光緒8年の記録簿には、毎日の点検記録が7月7日で終了した後、22aから25aまでの部分に、この年の1月分と見られる被収監者15名の名簿が満洲文で添付されている。この記録は大変に珍しい記録であって当該監獄の被収監者の実態をある程度分析できるため、以下にその名簿の全文を引用して検証しておきたい。

Φ.H.M1, T.H.1, XH.1911 の記録簿末尾に添付された文章⁽²²⁾

- 22a1 musei
我々の
- 22a2 ambasai harangga gindana de horibuha weilengge hūlhasai
大臣たちの所属の 監獄 に監禁させた罪ある 賊たちの
- 22a3 gebu jergi be ejche dangse,
名と地位を記録した檔子、
- 22a4 badarangga doro i jakūci aniya aniya biyai tofohon⁽²³⁾,
光 緒 8 年 正 月の15日、
- 22b (空 白)
- 23a1 musei
我々の
- 23a2 ambasai harangga gindana de horibuha weilengge hūlhasai gebu jergi be
(庫倫辦事) 大臣たちの所属の 監獄 に監禁させた罪ある 賊たちの 名と地位を
- 23a3 ejche
記録した、
- 23a4 onggolo gindana be kadalame tefi, wara weilengge hūlha
以前、 監獄 を管理していて、死 罪の 賊
- 23a5 šakdurjab se ci ulin gaifi hūlhasa be sulabume
シャグドルジャブらから財貨を受け取って賊たちを 解
- 23a6 sindafi, dasame hūlha ome yabuburede isibuha
放し、再び 賊となって行かせるに至らせた
- 23a7 turgunde meni bade beidefi tantame wara weile tuhebufi
ために 我々の所で裁き、打ち 殺す 罪に 当て、
- 23a8 badarangga doro i ningguci aniyade jurgan de boolame
光 緒 6 年に(理藩)院 に報告して

⁽²²⁾ この文章の訳文中、被収監者名に丸数字(①～⑮)を付すことによってそれが15名の内の何人目であるかを示す。なお23a2は双擡、23a4, 23a11, 23b3, 23b6, 23b11, 24a1, 24a11, 24b6, 25a3, 25a9は単擡されている。

⁽²³⁾ この tofohon の語のみ、なぜか赤色で左右に二つ同じ語が並べて書かれている。後から別人が書き込んだ可能性もある。この22aがこの名簿の表紙に当たると思われる。

- 23a9 yabubufi horibume aliyabuha tusiyetu han aiman i aisilara
文書を送り監禁させて待たせたトシェート・ハン部の 副
- 23a10 jiyanggiyūn wang otserbadzar i gūsai taiji kesiktoktahū
將軍 (郡) 王 オドセルバザルの旗⁽²⁴⁾のタイジ, ①ヒシクトクトホ.
- 23a11 geli giyajan tonggalak i tuwelehe jakūnju fucere yan menggun i
また, 従者トンガラクが仲買した 80 余 両の銀 の
- 23a12 hūda salire genggiyen cai abdaha juwe saksu be
価格に相当する緑 茶の葉 2 かご を
- 23a13 dalafi hūlhaha turgunde hūguwang fugiyan de falabure
首犯として盗んだために 湖広, 福建へ 流刑に処す
- 23b1 weile tuhebufi jurgan de yabubufi horibume aliyabuha
罪に 当てて (理藩) 院 に文書を送って監禁させて待たせた
- 23b2 jebdzundamba⁽²⁵⁾ kūtuku i šabi hūlha cengde
ジェブツンダンバ・ホトクトのシャビの賊②ツェンド.
- 23b3 geli ere baitai dorgi šandung honan de falabure weile
またこの事件の中で 山東, 河南 へ流刑に処す罪に
- 23b4 ⁽²⁶⁾tuhebufi horibume aliyabuha ineku šabi i ilhi hūlha
当てて 監禁させて待たせた同じシャビの従 犯
- 23b5 dambarabjiya
③ダンバラブジャー.
- 23b6 geli ulin kiceme irgen yuwan sy yan sere ulangdai sebe
また財貨を求めて民人ユワン・ス・ヤンというウランダイ⁽²⁷⁾らを
- 23b7 nungneme bucebuhe turgunde sacime wara weile tuhebufi,
侵害して 死なせたために 斬 刑に当てて
- 23b8 badarangga doro i nadaci aniyade, jurgan de boolame
光 緒 7 年に (理藩) 院 に 報告して

(24) トシェート・ハン部中右旗. 包 1995: 518, 541, IIIapxyy 1984: 156 参照.

(25) この語から真上に向けて点線が引かれ, 欄外に細かい文字による書き込みが 6 行確認できる. 細かくて大変読みにくい, 「jjuwanci aniya 2anagan i sunja 3biyade gindana de 4horibure jalin 5dolon noor de 6benebuhe (光緒) 10 年閏 5 月に監獄に監禁させるためにドロン・ノールへ送らせた」と書かれている. ツェンドのことである. ドロン・ノールには理事同知が駐在していて, 外モンゴル東部での死刑案件の被疑者がここに送られていたことは既に知られている. 萩原 2006: 77-78 参照.

(26) この 4 行目の真上にも欄外に「inu 2benebuhe これもまた送らせた」という 2 行分の書き込みがある. おそらく前注のツェンドと同様, このダンバラブジャーもドロン・ノールに身柄を送らせたという意味であろう. また, 23a の 11 行目から 23b の 5 行目までを細い線で囲もうとした跡が見られる. これも, ツェンドとダンバラブジャーの 2 人をドロン・ノールに送ったという意味で囲もうとした形跡かと思われる.

(27) ウランダイとはこの漢人の持つ通称としてのモンゴル名であると思われる.

- 23b9 yabubufi, horibume aliyabuha, cecen han aiman i beise
文書を送って監禁して待たせたツェツェン・ハン部の貝子
- 23b10 gongcukjab i gūsai ehe weilengge cultum, cingrub
ゴンチクジャブの旗⁽²⁸⁾の悪い罪人④ツルテムと⑤チンルブ、
- 23b11 geli onggolo geren niyalmai ulha jaka be hūlhame yabuha
また以前 多くの人の 家畜や物品を盗んでいた
- 23b12 turgunde, musei baci jafabufi, gindana de horibuha, tusiyetu
ために 我々の所から捕えさせて監獄 で監禁させたトシェート・
- 23b13 han aiman i aisilara jiyanggiyūn wang otserbadzar i gūsai
ハン部の副 将軍(郡)王 オドセルバザルの旗⁽²⁹⁾の
- 23b14 hūlha dajin ini necihe baita be harangga [culgan i da i]⁽³⁰⁾ bade icihiyambi, [tederi]
賊⑥ダジン、彼の関わった事件を所属の[盟長の] 所で処理する。[それから]
- 24a1 geli irgen su lii tan i hūsun i niyalma be tantame temen
また民人ス・リー・タンの従業 員 を打って ラクダや
- 24a2 jaka be durime tabacilaha jalin jafabufi horibuha
物品を 奪い 取った ために捕えさせて監禁させた
- 24a3 tusiyetu han aiman i gung misikdorji i gūsai hūlha
トシェート・ハン部の(輔国)公ミシクドルジの旗⁽³¹⁾の賊
- 24a4 jambalcoijun⁽³²⁾ ini necihe baita be jurgan i janggin i
⑦ジャンバルチョイジン、彼の関わった事件を(理藩)院 章京⁽³³⁾の
- 24a5 yamun de beideme icihiyambi, damu esei dorgi hūlha
衙門 で裁いて 処理する。ただ彼らの内、賊
- 24a6 cengde, dambarabjiya, jambalcoijun se siran siran i
②ツェンド、③ダンバラブジャー、⑦ジャンバルチョイジンらは次々と
- 24a7 gindana ci jenduken i tucifi, kuren i dondubling aiman i
監獄から 密か に出て、フレーのデンデプリン・アイマク⁽³⁴⁾の

(28) ツェツェン・ハン部中左旗。包 1995: 604, Шаpxyy 1984: 176 参照。

(29) トシェート・ハン部中右旗。包 1995: 518, 541, Шаpxyy 1984: 158 参照。

(30) 行の左側にあるこの追加挿入句を入れるべき元の部分に、✓のような記号が書き込まれている。

(31) トシェート・ハン部左翼左中末旗。包 1995: 519, 548, Шаpxyy 1984: 157 参照。

(32) この人名から上方に点線が引かれて、上の欄外に 3 行分のモンゴル語による書き込みがある。regūni basa dolon nuur-tu qoriyuljei 「彼もまたドロン・ノールで監禁させた」と書かれている。ジャンバルチョイジンのことだと思われるが、24a の 1 行目と 10 行目の行頭あたりにも細い線で 10 行分全体を囲もうとした形跡が見られる。これは、6 行目にツェンド、ダンバラブジャー、ジャンバルチョイジンという 3 名が書かれているため、3 人ともドロン・ノールに送ったという意味で、10 行分を囲もうとしたのであろう。

(33) 庫倫管理商民事務章京。理藩院から派遣されてフレーに駐在し、庫倫辦事大臣の管轄下で主として買賣城での漢人商人たちを監督していた官僚。佐藤 2009: 16, 48, 63, Сономдагва 1961: 42-44 等を参照。

(34) ズーン・フレー(東の寺院。フレー市街のこと)を南南西から時計回りで円形に囲む計 30 個の居住地区

- 24a8 jiba i menggun ulin jaka, geli hehe norjingma i
ジャブの銀, 財貨, 物品, また女 ノルジンマーの
- 24a9 ulin jaka be hūlhaha baita bi, meni doron i
財貨物品を盗んだ 事件がある. 我々の印務
- 24a10 bade beidembi,
処で裁く.
- 24a11 geli tusiyetu han aiman i gung turubolot i gūsai janggin
またトシェート・ハン部の(輔国)公トウルボルドの旗⁽³⁵⁾の章京
- 24a12 gombojab i nadan morin be durime tabcilaha baitai
ゴンボジャブの7頭の馬 を奪い 取った 事件の
- 24a13 gindana de horibuha amban beise i gūsai hūlha
監獄 に監禁させた大臣 貝子の旗⁽³⁶⁾の賊
- 24b1 babak sere jundui i neku gūsai cidang sere jamsaran
ババクという⑧ゾンドイ⁽³⁷⁾. 同じ旗のチダンという⑨ジャムスラン⁽³⁸⁾.
- 24b2 cecen han aiman i gung damdindorji i gūsai hūlha
ツェツェン・ハン部 の公 ダムディンドルジの旗⁽³⁹⁾の賊
- 24b3 jamcu, ere ilan hūlhasai baita be juwe aiman i
⑩ジャムツ. この3人の賊たちの事件を2つの部の
- 24b4 culgan i da, erdeni šangjotba sa tederi uhei acafi
盟 長, エルデネ・シャンゾドバラがそこで共に集まって
- 24b5 beidembi,
裁く.
- 24b6 geli oros i juwe niyalmai baru hoki guilefi ulin kiceme
またロシアの2人の人と 共に徒党を組んで財貨を求めて

(アイマク, 僧坊)の内の第2番目に当たる地区. これらの地区がフレー市街を形成していた. 萩原 2020: 122–126, Пүрэв 2004: 16–24 等を参照.

(35) トシェート・ハン部左翼右末旗, 旗長トウルボルドの爵位は包 1995: 570 で頭等台吉になっているのに対してここでは公となっている. Шапхуу 1984: 158 でも輔国公となっているので, 包 1995: 570 の誤りと思われる.

(36) トシェート・ハン部中旗, 旗長は貝子ナムジルデンデブで, 庫倫辦事大臣のモンゴル大臣職を兼ねていた. 萩原 2024: 55 でも述べたように包 1995: 533 は爵位を貝勒とするが, Шапхуу 1984: 154 でも貝子となっており, 生涯貝子のままであったようである.

(37) ゾンドイという名がモンゴル人によくあるのに対してババクという名はほとんど見られない. ゾンドイが本名でババクが通称であると思われる.

(38) ジャムスランが本名でチダンが通称だと思われる.

(39) ツェツェン・ハン部左翼右旗, 旗長ダムディンドルジの爵位は包 1995: 636 で頭等台吉となっているのに対して, この文書では公となっている. Шапхуу 1984: 180 では鎮国公となっているので, 包 1995: 636 の誤りと思われる.

- 24b7 kiyaktu i irgen hui ting be tantame bucebuhe baitai gindana de
 キャフタの民人フイ・ティンを打って 死なせた事件の監獄 で
- 24b8 horibuha jebdzundamba kütuktu i šabi weilengge hülha
 監禁させたジェブツンダンバ・ホトクトのシャビで罪ある 賊の
- 24b9 damdin, cahar gulu šanyan i gūsai weilengge hülha
 ⑪ダムディン、チャハル正 白 旗の 罪ある 賊
- 24b10 cagan lama sere ġaram, ere baitai dorgi ukaha
 ツァガーン・ラマという⑫ガラム⁽⁴⁰⁾、この事件の中で逃げた
- 24b11 weilengge oros asi wangkei be hūdun jafabure jalin
 罪あるロシア人アシ・ワンケイ⁽⁴¹⁾を早く 捕えさせるために
- 24b12 oros i mayur de ulhibure babe ere aniya i
 ロシアの少佐 に知らせることを今年 の
- 24b13 duin biyade kiyaktu i jurgan i janggin de
 4 月 にキャフタの(理藩)院 章京⁽⁴²⁾に
- 25a1 afabuhabi, ere baita be meni doron i bade
 命じたのである、この件 を我々の印務 処で
- 25a2 beidembi,
 裁く、
- 25a3 geli šabi daruga gombujab be nungneme bucebuhe baitai
 またシャビの長官ゴンボジャブを侵害して 死なせた事件の
- 25a4 gindana de horibuha cecen han aiman i
 監獄 に監禁させたツェツェン・ハン部 の
- 25a5 gung gombujab i gūsai weilengge hülha tungtu, cokbadarahū
 (輔国) 公ゴンボジャブの旗⁽⁴³⁾の罪ある 賊⑬トウントゥー、⑭ツォクバダラホ、
- 25a6 ineku aiman i cin wang namjildondub i gūsai
 同じ 部 の親 王 ナムジルドンドブの旗⁽⁴⁴⁾の
- 25a7 weilengge samboo ere baita be meni doron i
 罪ある⑮サンボー、この件 を我々の印務

(40) これも、ガラムが本名でツァガーン・ラマが通称であると思われる。

(41) この人物は逃亡中であつたために、後出する 15 名という当時の被収監者の中に含まれていないようである。

(42) 理藩院から派遣されてキャフタに駐在し、主としてキャフタの買売城で漢人商人たちを監督していた官僚、佐藤 2009: 267-269, Сономдагва 1961: 42-44 等を参照。

(43) ツェツェン・ハン部右翼中右旗、包 1995: 618, Шаpxyy 1984: 182 参照。

(44) ツェツェン・ハン部左翼中旗、包 1995: 594, Шаpxyy 1984: 174 参照。

25a8 bade beidembi

処で裁く.

25a9 ereci wesihun gindana de horibuha weilengge hūlha

以 上, 監獄 で監禁させた罪ある 賊は

25a10 uheri tofohon,

合計 15 人.

以上の 15 名に逃亡中のロシア人被疑者を加えて, その所属や罪状をここで短く整理検討しておく. 表 3 は, 彼らに関する記述内容を一覧表にまとめたものである.

まず, 被収監者の所属としてはやはり基本的にツェツェン・ハン部, トシェート・ハン部, イフ・シャビという庫倫辦事大臣の管轄下にある住民である. ⑫ガラムのみはチャハル正白旗出身であるが, ⑪ダムディンと一緒に強盗殺人を犯していることから, おそらくは何らかの事情でキャフタにでも流れてきていて犯罪を犯したものと推定できる. またロシア人がこの強盗殺人事件に加わって逃亡中であるということもわかる. 一方, サイン・ノヤン部, ザサクト・ハン部という西部 2 盟出身者は一人もいないため, この一覧表を見ただけでも, 当然ウリヤスタイあたりにまた別の西部 2 盟出身者用の重罪犯向け監獄があったはずだと理解できるであろう.

また, イフ・シャビは所属を見るだけで身分が明瞭であるが, それに対して他の被収監者は所属のみが記録されていて, 箭丁, 随丁, 奴婢などの身分は全く表記されていない. おそらく裁判に際してはより詳しい記録が残されたものと思われるが, 少なくとも被収監者という面に関しては区別する必要もなかったのであろう. ちなみにイフ・シャビ身分のみは適用される法の上でもまた裁判制度の上 (下級審のみ) でも明瞭な違いがあった⁽⁴⁵⁾ため, 身分を明記することはもちろん必須であった. 軽犯罪者向けの監獄が一般モンゴル人用監獄とイフ・シャビ専用監獄とで別々に設置されていたのも, もちろんこの故である (萩原 2024: 40-49).

次に 15 名の罪状を見ると, 殺人, 強盗, 高額品の窃盗, 脱獄 (とその幫助) など, やはりかなり重い罪を犯しており, それに伴って, 大臣衙門での擬案 (判決の原案) も死刑や流刑などかなり重い刑罰が想定されている. フレー監獄が重罪犯専用の監獄であったことは, この一覧表からも傍証できるであろう. 特に脱獄 (②③⑦) と賄賂を受け取った上での脱獄幫助 (①) を犯した

⁽⁴⁵⁾ イフ・シャビに対する法や裁判制度の詳細はまだ解明されていない. 法の上では, 「蒙古例」や『大清律例』に加えて 19 世紀以降「オラウン・ハツアルト」と呼ばれる判例法が適用されていたことが既にわかっている. 推定を交えて裁判制度を述べておくと, 第一段階での裁判 (一般平民という旗レベルの裁判に相当) は各地方のイフ・シャビの戸籍上の単位であるオトクごとにその管理者であるザイサンによって行われ, 第二段階での裁判 (一般平民という盟レベルの裁判) はフレーのエルデネ・シャンゾドバによって行われたはずである. 「オドセルとナワーンの事件」では, 第一段階の裁判を省略してエルデネ・シャンゾドバのレベルから裁判が開始されている. そして第三段階の庫倫辦事大臣レベルから上はイフ・シャビと一般盟旗の平民とが同じ制度下で裁かれたはずである. そのために, 重罪犯のイフ・シャビも他の一般盟旗の平民たちと同様にフレー監獄に収監されたわけである. 萩原 2006: 113-135, Нинжбадгар 2014: 132-136 等を参照.

名前(満洲文)	所属	罪状	擬案	その後の裁判予定
① kesiktoktahū	トシェート・ハン部	脱獄幫助	杖殺刑	理藩院
② cengde	イフ・シャビ	お茶の窃盗首犯・脱獄・窃盗	流刑	理藩院(身柄をドロノ・ノールへ)
③ dambarabjiya	イフ・シャビ	お茶の窃盗従犯・脱獄・窃盗	流刑	理藩院(身柄をドロノ・ノールへ)
④ cultum	ツェツェン・ハン部	強盗殺人	斬刑	理藩院
⑤ cingrub	ツェツェン・ハン部	強盗殺人	斬刑	理藩院
⑥ danjin	トシェート・ハン部	窃盗	未定	トシェート・ハン部盟長
⑦ jambalcoijun	トシェート・ハン部	強盗傷害・脱獄・窃盗	未定	庫倫管理商民事務章京・庫倫辦事大臣印務処 (身柄をドロノ・ノールへ)
⑧ jundui	トシェート・ハン部	馬7頭の窃盗	未定	両盟長とエルデニ・シャンゾドバの合同裁判
⑨ jamsaran	トシェート・ハン部	馬7頭の窃盗	未定	両盟長とエルデニ・シャンゾドバの合同裁判
⑩ jamcu	ツェツェン・ハン部	馬7頭の窃盗	未定	両盟長とエルデニ・シャンゾドバの合同裁判
⑪ damdin	イフ・シャビ	強盗殺人	未定	庫倫辦事大臣印務処
⑫ ġaram	チャハル正白旗	強盗殺人	未定	庫倫辦事大臣印務処
⑬ tungtu	ツェツェン・ハン部	殺人	未定	庫倫辦事大臣印務処
⑭ cokbadarahū	ツェツェン・ハン部	殺人	未定	庫倫辦事大臣印務処
⑮ samboo	ツェツェン・ハン部	殺人	未定	庫倫辦事大臣印務処
asi wangkei	ロシア人	強盗殺人(⑪⑫の共犯)	未定	未定

表3 光緒8(1882)年1月におけるフレー監獄での被収監者15名

被疑者が15名中に計4名も見受けられるということは、いかに脱獄が頻繁に起こっていたかを物語っていると言えるかも知れない。

またその後の裁判の進行予定という面から見ると、大臣衙門で既に擬案を作成している①～⑤まではそのまま理藩院へ文書を送って上申するとし、⑥以降のまだ擬案の出していない10名に関しては罪状と裁判の進み具合に応じて、次の段階の裁判予定をここに記録している。こういう形で被収監者全員を常に管理していたということがここから理解できるであろう。

さらに、被収監者の身柄については、「ドロノ・ノールに送らせた」と欄外に追記された被収監者が3名見られる。②ツェンドは「(光緒)10年閏5月に監獄に監禁させるためにドロノ・ノールへ送らせた」と追記されている。③ダンバラブジャーも「これもまた(ドロノ・ノールに身柄を)送らせた」と追記されている。⑦ジャンバルチョイジンについても「ドロノ・ノールで監禁させた」と書かれている。以上の3名はいずれも脱獄経験者なので、再度の脱獄を防ぐ目的で、おそらくはより管理の厳しいドロノ・ノールの監獄に収監させようとしたのであろう。ドロノ・ノールには理事同知が駐在していて、外モンゴル東部での死刑案件の被疑者がここに送られていたことは既に知られている(萩原 2006: 77-78)が、再脱獄の防止という側面もあった可能性が新たに追加できよう。

以上のようなことがこの表3より読み取れる。今後、より長期間にわたるこの種の記録が発見されれば、犯罪件数の統計や被収監者数の統計なども算出できるはずであるが、残念ながら現在の所はこの15名の記録しか確認できていない。今後の研究に期待したい。

第5章 光緒11(1885)年の脱獄事件時の看守と箭丁たち

第1節 光緒11年の脱獄の概要

続いて、光緒11(1885)年5月7日夜に3名の被収監者が脱獄し、まもなく再捕獲されたという脱獄の実例から、看守たちや箭丁(兵士)たちの勤務状況を検証してみたい。既に萩原 2024: 59-67 にてこの事件から主として脱獄の方法を検証したのであるが、この事例が脱獄の事件であったために看守のみならず箭丁の勤務状況も記録されており、被収監者を取り逃がしてしまった彼らに対する処罰までも記録されているからである。大臣衙門印務処による Ф.Н.М1, Т.Н.1, ХН.6222, 22-р бичиг の満洲文書⁽⁴⁶⁾から事件の概容をまとめると、この夜、トゥメン、ダムディン、バボーガラブという計3名の被収監者がフレイ監獄から脱獄し、責任看守らしき「監獄の総管理副章京ゴンボスレン」と「監獄を施錠したツェツェン・ハン部の輪番の驍騎校ツェベクジャブ」、そして被収監者3名を巡視していた箭丁ジグジャブら7名という合計9名の監視者が処罰されている。

ツェベクジャブはツェツェン・ハン部輪番衙門の官員であったが、ゴンボスレンもツェツェン・ハン部から派遣されて大臣衙門で働いていた官員であったことがわかっている(萩原 2024: 63)。箭丁ジグジャブら7名の所属も、明記されていないが同様であった可能性がある。以上計9名の内でゴンボスレンが最も重く処罰されているため、彼が責任者であったとみられる。

本稿の表1と表2で常に看守3名の筆頭に名を挙げられていた大臣衙門の書記は何故かこの事例では見られず、看守は2名のみであった。表1, 2の分析から判断すると、ゴンボスレンは明らかに「3人目の看守」に相当し、ツェベクジャブは明らかに「2人目の看守」に相当する。そうすると、この事例のように常に「3人目の総管理」が責任看守であったという可能性も考えられよう。かつ、「3人目の総管理」が常に被収監者の出身組織から選出されていたという可能性も考えられるであろう。もしもそうだとすると、大臣衙門の書記は単に記録を残すためだけに毎日呼ばれていて、さほどの責任は負っていなかったという可能性も出てこよう。

第2節 供述から見た看守たちと箭丁たちの勤務状況

前節で利用した大臣衙門印務処の文書(Ф.Н.М1, Т.Н.1, ХН.6222, 22-р бичиг)は蛇腹状に山と谷をつけて折りたたまれたいわゆる「折り本」形式の文書なのであるが、文書の最初(左端)と最後(右端)が糊で互いに貼り合わされているため、全体を広げると上下に大きな穴の空いた筒のような形になっている。その筒の外側(おもて面)に本文44行が書かれているわけであるが、筒の内部にも満洲文折り本文書であるまた別の23-р бичиг(第23文書)が糊付けされずに包み込まれている。添付文書と言うべきであろう。この第23文書には、まず看守であった副章京ゴンボスレンの供述(16行)、驍騎校ツェベクジャブの供述(6行)、箭丁ジグジャブとツェリンダシの供述(18行)、箭丁ツェンド、ゴンボ、ドンドク、トゥムル、ジャンバル計5名の供述(16行)、そして脱獄者トゥメン、ダムディン、バボーガラブ計3名の供述(26行)が記録されている。供

⁽⁴⁶⁾ 萩原 2024: 60-61 で転写全訳している。

述と供述との間には一定の間隔が空けられているため、通算の行番号で表示するのではなく、個々の供述をひとかたまりとしてその中での行番号を示すこととしたい。

まず、萩原 2024: 64–66 にて既に検討した脱獄者たちの供述から分かることは以下の通り。被収監者は食事中は木製箱形独房から出してもらえたようであり、夜間は箱形独房に入れられたらしい。この日の夕食後、まずトゥメンが脱獄を提案して残り2名がすぐ賛成した。3名は夜間箭丁たちの巡視の際を突いて箱形独房と出入り口の門の錠前を両方壊して脱獄した。手枷、足枷の鉄製の鎖も、ほどいたり壊したりして3名共に逃亡に成功したのであった。

次に、看守や箭丁の勤務状況に関しては、彼らの供述が役立つ。この内、まず副章京ゴンボスレンの供述は以下の通り（テキスト転写中の数字は行番号を示す）。

Ф.Н.М1, Т.Н.1, ХН.6222, 23-р бичиг の満洲文文書（ゴンボスレンの供述）

¹gindan be uherileme kadalara meiren gonmbusurun i ²jaburengge, bi harangga baci, afabuha be
監獄 の 総 管理副章京ゴンボスレンの供述すること。「私は所属の所⁽⁴⁷⁾が命じたのに
dahame, ³ubai gindana be uherileme kadalame terede, ⁴ere aniya sunja biyai ice nadan i ⁵yamjishūn
従ってここの 監獄 を 総じて管理している時に、今年 5 月の 初7日の夕暮れ時に
geren uksisai sasa ⁶ weilengge babugarbu sede cai buda be jebufi, ⁷cecen han aiman i
多くの箭丁たちと共に罪人バボーガラブらにお茶と穀物を飲食させ、ツェツェン・ハン部の
idui baci tucibuhe ⁸kundu cebekjab i sasa ⁹baisin boo be an i ¹⁰yooselafi,
輪番の所から派出した驍騎校ツェベクジャブと共に固定家屋をいつも通りに施錠して
dabori kederere gaksi teisulehe uksin ¹¹jikjab, ¹²cerindasi sede ciralame kederere babe
夜間 巡視する同僚となった箭丁ジグジャブ、ツェリンダシらに嚴重に 巡視することを
¹³afabufi, boode jihe ¹⁴sirame, ineku ¹⁵jikjab se ¹⁶weilengge hūlhasa ukaha
命じて、宿舎に戻ってきました。続いて、そのジグジャブらが『罪ある賊たちが逃げた！』
seme sureme ¹⁷hūlha de genefi tuwaci, weilengge babugarbu, damdin, ¹⁸tumen se
と叫び（そこで）賊（の所）に行ってみると、罪人バボーガラブ、ダムディン、トゥメンら
baisin boo i yoose be efuleme ¹⁹semgeri ukaha ofi, ²⁰ele turgen be halilame ²¹ambasai yamun de
が固定家屋の錠前を壊して 一挙に逃げていたので、全ての事情を急いで大臣たちの衙門に
boolaha ²²seme jabumbi,
知らせました」と供述している。

ゴンボスレンはこの夜、ツェベクジャブ、箭丁7名と共に合計9人で被収監者3名にお茶と穀物を飲食させて、固定家屋（出入り口の門）をツェベクジャブとともに施錠し、7名の内の当番であったジグジャブとツェリンダシに巡視を命じて宿舎へ戻った。その後、「賊たちが逃げた」とジグジャブらが叫んだので駆けつけてみると、被収監者3名が「固定家屋の錠前を壊して一挙に逃げていた」と述べている。

⁽⁴⁷⁾ おそらく大臣衙門のこと。

次に、ツェベクジャブの供述は以下の通り。

Ф.Н.М1, Т.Н.1, ХН.6222, 23-р бичиг の満洲文文書（ツェベクジャブの供述）

¹hundu cebekjab ²i jaburengge, ³bi harangga idui baci ⁴afabuha be dahafi, ⁵ere sunja
驍騎校ツェベクジャブの供述すること。「私は所属の輪番の所⁽⁴⁸⁾が命じたのに従って、この5
⁶biyai ice nadan i ⁷yamjishūn erinde weilengge hūlhasa de, cai ⁸buda be jebufi, gindana be uherileme
月の初7日の夕暮れ時に罪ある賊たちに、お茶と穀物とを飲食させて、監獄の総
⁹kadalara meiren ¹⁰gombusurun, geren ¹¹uksai sasa ¹²baising boo i ¹³yoose be an i ¹⁴yooselafi
管理副章京ゴンボスレンや多くの箭丁たちと共に固定家屋の錠前をいつも通りに施錠して
¹⁵mariha ¹⁶seme jabumbi
帰りました」と供述している。

2人で施錠したというゴンボスレンの供述とは違い、このツェベクジャブの供述では取監者の夕食後ゴンボスレンや多くの箭丁たちと一緒に（つまり合計9人で）固定家屋を施錠したと述べている。

脱獄時に巡視していた箭丁ジグジャブとツェリンダシの供述は以下の通りである。

Ф.Н.М1, Т.Н.1, ХН.6222, 23-р бичиг の満洲文文書（ジグジャブとツェリンダシの供述）

¹uksin jikjab, ²cerindasi sei jaburengge, ³be harangga ⁴baci afabuha be dahafi,
箭丁ジグジャブ、ツェリンダシらの供述すること。「我々は所属の所⁽⁴⁹⁾が命じたのに従って、
⁵ubai gindana de horibuha ⁶weilengge hūlha dagajin⁽⁵⁰⁾, ⁷tumen ⁸sebe tuwakiyambihe,
ここの監獄に収監された罪ある賊ダムディン、トゥメンらを監視していたのです。
⁹ere [aniya] sunja ¹⁰biyai ice nadan i ¹¹yamjishūn ¹²serinde, ineku weilengge hūlhasa de, cai ¹³buda be
今[年]5月の初7日の夕暮れ時にその罪ある賊たちにお茶と穀物とを
¹⁴omibume jebufi, uherileme kadalara meiren ¹⁵gombusurun, [cecen ¹⁶han aima i idui baci
飲食させて、総管理副章京ゴンボスレン、[ツェツェン・ハン部の輪番の所から
¹⁷tucibuhe] ¹⁸hundu ¹⁹cebekjab ²⁰sei sasa ²¹baisin ²²boo be an i ²³yooselafi, ²⁴meni juwe niyalma ²⁵dobori
派出した]驍騎校ツェベクジャブらと共に固定家屋をいつも通り施錠して我々2人で夜間
²⁶kedereme yaburede ²⁷ceni hūlhasa umai ²⁸asuki akū de tuwaci, ²⁹ceni weilengge hūlhasa ³⁰baisin boo i
巡視していた所、彼ら賊に全く物音がないので見てみると、彼ら罪ある賊は固定家屋の
³¹duka beneifi ³²emgeri ukaha turgunde ³³uherileme kadalara hafan, ³⁴geren ³⁵uksai be ³⁶sureme
門を開けて一挙に逃亡していたので、総管理の官員、多くの箭丁らを大声で
³⁷hūlara de, ³⁸meiren ³⁹gombusurun ⁴⁰se ⁴¹jifi, ⁴²ceni hūlhasa ⁴³baisin boo i ⁴⁴yoose be ⁴⁵efuleme ukaha be
呼ぶと、副章京ゴンボスレンらが来て、彼ら賊が固定家屋の錠前を壊して逃げたのを

(48) フレーにおけるツェツェン・ハン部の輪番衙門。

(49) 大臣衙門と思われるが、箭丁たちの元の出身地は正確にはなお不明。

(50) 明らかに damdin の誤記。満洲語で供述を作成した際の単純な記入ミスかと思われる。

tuwafi, uthai ¹⁶ambasai yamun de boolaha be umai ulintume ¹⁷sulabume sindaha ba
 見て、すぐに 大臣 衙門に報告しました。我々が全く賄賂を使って 解 放したことが
 akūnge yargiyan ¹⁸seme jabumbi
 ないのは本当です」と供述している。

この日の夜巡視当番であったジグジャブとツェリンダシも、夕食後やはり看守と箭丁全員で固定家屋を施錠したと供述している。また箭丁は 2 人 1 組となって日替わりで夜間の巡視を行っていたらしいこともわかる。続いてツェンド以下 5 名の箭丁の供述は以下の通り。

Ф.Н.М1, Т.Н.1, ХН.6222, 23-р бичиг の満洲文文書（ツェンド以下 5 名の供述）

¹uksin cengde, gombu, dongduk, temur, jambala sei uhei ²jaburengge, be uksin
 箭丁ツェンド、ゴンボ、ドンドク、トゥムル、ジャンバルらが共に供述すること。「我々は箭丁
 jikjab, cerindasi sei sasa doboridari ³juwe niyalma halanjame kederembihe, ere sunja biyai ⁴ice nadan
 ジグジャブ、ツェリンダシらと共に毎晩 2 人で交代して巡視していました。この 5 月の初 7 日
 i yamjishūn erinde, cecen han aiman i idui ⁵hundu cebekjab, gindana be uherileme kadalara meiren
 の夕暮れ 時にツェツェン・ハン部の輪番の驍騎校ツェベクジャブ、監獄の総管理副章京
 gombusurun sei ⁶sasa hūlha de cai buda be jebufi, meimeni tebuhe ⁷horho baisin booi duka be gemu
 ゴンボスレンらと共に賊にお茶と穀物を飲食させて、各々入れた箱と固定家屋の門を皆で
 yooselafi, hundu ⁸cebakjeb⁽⁵¹⁾ be mariha amala, ineku dobori gaksi teisulefi ⁹kederehe uksin
 施錠して、驍騎校ツェベクジャブが帰った後、その 夜 同僚となって 巡視した箭丁
 jikjab cerindasi se hūlhasa be ¹⁰tebuhe baisin boo i duka [neihe]ese seme sureme
 ジグジャブ、ツェリンダシらが賊を入れた固定家屋の門が〔開いた〕ようだと大声で叫んで
¹¹hūlara de, meiren gombosurun, be leksei genefi ¹²tuwaci hūlhasa baisin boo i dukai yoose be
 呼ぶので、副章京ゴンボスレンと我々が皆行ってみると、賊たちは固定家屋の門の錠前を
¹³efulefi ukaha turgunde, meiren gombusurun, uthai, ¹⁴ubai yamun de jifi boolaha,
 壊して逃げていたので、副章京ゴンボスレンがすぐにこの衙門に来て報告しました。
 be hūlhasa be ulintume ¹⁵sulabume sindaha jergi jemden turgun akūnge tumen ¹⁶yargiyan
 我々が賊 を賄賂をもらって解 放した などの乱れた事情がないことは全く 本当です」
 seme jabumbi
 と 供述している。

ツェンド以下 5 名の箭丁によるこの供述でも、やはりまず箭丁たちが 2 人 1 組となって日替わりで夜間巡視していたことがわかる。また被収監者への食事の提供も施錠も、看守と箭丁全員で行っていたことがわかる。次に重要なのは、ここで述べられている horho「箱」である。これは、萩原 2024: 62–65 で明らかにしたように、マーメンの写真やアンドリュースの旅行記に出てくる棺桶風の木製箱形独房である。看守 2 名とジグジャブ・ツェリンダシの供述では省略されたと見え

(51) 明らかに cebekjab の誤記。

て出てこないが、この残り 5 名の箭丁による供述と脱獄者 3 名の供述では、重要なポイントとして言及されている。

以上のような方法で、看守と箭丁たちは被収監者を毎日管理していたわけである。

第二節 看守たちと箭丁たちへの処罰

前述した Ф.Н.М1, Т.Н.1, ХН.6222, 22-р бичиг の満洲文文書によると、責任看守ゴンボスレンは家畜 5 頭没収、ツェベクジャブは家畜 2 頭没収、ジグジャブら箭丁 7 名は鞭打ち（笞刑、回数表記なし）という処罰を受けた。

光緒 11 (1885) 年 8 月 29 日付けでヘルレン・バルス・ホト盟 (ツェツェン・ハン部) 中左翼前旗旗長ツェレンドンドブドルジから大臣衙門に送付されたモンゴル文文書 (Ф.Н.М1, Т.Н.1, ХН.6222, 25-р бичиг) によると、副章京ゴンボスレンはこの中左翼前旗から派遣された官員であったようで、家畜 5 頭分に相当する銀 15 両を中左翼前旗が大臣衙門に送付したことが確認できる。副章京ゴンボスレンの「名義で……催促して出させて (ner-e-yin dourača …… kögegen yaryayulju)」と記録されているので、彼個人の財産から取り立てたようである。また、同年 9 月付け⁽⁵²⁾の大臣衙門印務処による満洲文記録 (Ф.Н.М1, Т.Н.1, ХН.6222, 24-р бичиг) からは、9 月 16 日にこの 15 両を受領して公庫に入れたことを、大臣がヘルレン・バルス・ホト盟長らに通知したことがわかる。驍騎校ツェベクジャブに科された罰畜 2 頭分の最終措置は確認できていないが、おそらくは同様に処置されたものと思われる。

おわりに

光緒 5 (1879) 年, 8 (1882) 年, 11 (1885) 年におけるフレー監獄の看守と被収監者に関する本稿での検討結果をここでまとめておこう。

まず、フレ－監獄の看守、箭丁、被収監者は共通して、基本的にツェツェン・ハン部、トシェ－ト・ハン部という外モンゴル東部二盟とイフ・シャビに属する人間であった。西部 2 盟の犯罪者に対してはまた別の監獄がウリヤスタイに存在していたはずである。また光緒 8 年 1 月段階での被収監者 15 名の罪状は殺人、強窃盗、脱獄等の重罪ばかりであって、この監獄が重罪犯専用の監獄であったことがよくわかる。またこの 15 名の被収監者の内、4 名が脱獄に関わっており、光緒 11 年にも 3 名の脱獄者が出た。光緒 5 年のオドセルの脱獄を含むこれらの事例から見て、フレ－監獄からの脱獄はかなり頻繁に発生していたと判断できる。さらに光緒 8 年の被収監者一覧からは、脱獄経験者の再脱獄を防ぐためにドロソ・ノールの監獄に送ったと見られる事例が 3 名分確認できる。

光緒5年と8年の管理記録の例では、毎日看守が3名いて、3名でその日の施錠確認等の作業を行っていた。3名の看守の中の1人目は基本的に計6名の大臣衙門書記が一組のグループを形成しており、その6名から毎日1人ずつ出るというローテーションで看守を務めて、その日の看守3

⁽⁵²⁾ 日付は不明、「juwan (10)」とのみ記入されているため、銀を受領した16日以降、19日までの間と思われる。

名を代表して毎日記録を付けていた。2 人目の看守は都市フレーに存在していたツェツェン・ハン部の輪番衙門、トシェート・ハン部の輪番衙門、エルデネ・シャンゾドバ衙門という計 3 つの衙門から規則的に交代で毎日 1 名の官員が出てきており、3 日に一度という勤務を 1, 2 ヶ月連続して務める人物もいた。3 人目の看守の出自はなお断言できないが、被収監者と同じ出身集団の衙門から大臣衙門に派出されている官員が務めていた可能性がある。かつこの 3 人目が 3 名の看守の中で最も責任の重い看守を務めていた可能性もある。この看守も、同一人物が 1, 2 ヶ月間毎日継続して務めた例が見られる。

これら看守 3 名による毎日の点検の対象物は被収監者たちの手枷、足枷（鎖）、木製箱形独房と監獄の固定家屋（門）の施錠、柵であった。

光緒 11（1885）年の脱獄事件の事例では、看守 2 名と箭丁 7 名が監獄を交代で監視していて、被収監者の食事の世話や施錠確認は看守 2 名だけではなく箭丁を含めた全員で行っていた。夜間の巡視は日替わりで箭丁 2 名が一組となって実施していた。脱獄の事件が起こると、看守、箭丁ともに全員処罰されていたが、処罰の重さは責任看守が最も重く、箭丁が最も軽かった。

今後の課題となる未解明の事柄は多数挙げられるが、とりあえず次の課題としてはこのフレー監獄の経済的な運営実態から着手していきたい。

（本研究は日本学術振興会科学研究費助成事業課題番号 21K00890 による研究成果の一部である。本稿の掲載に当たって貴重なご意見をいただいた査読者各位に心より謝意を表したい）

主要参考文献

【漢文史料】

三多 2004：『庫倫奏議（全二冊）』全国図書館文献縮微複製中心

【和文文献】

太田 出 2015：『中国近世の罪と罰』名古屋大学出版会。

岡 洋樹 1992：『「庫倫辦事大臣」に関する一考察』『神田信夫先生古希記念論集：清朝と東アジア』山川出版社，197-214。

岡 洋樹 2007：『清代モンゴル盟旗制度の研究』東方書店。

佐藤憲行 2009：『清代ハルハ・モンゴルの都市に関する研究：18 世紀末から 19 世紀半ばのフレーを例に』学術出版会。

滋賀秀三 1972：「刑罰の歴史：東洋」莊子邦雄他（編）『刑罰の理論と現実』岩波書店：94-120。

滋賀秀三 1984：『清代中国の法と裁判』創文社。

島田正郎 1982：『清朝蒙古例の研究（東洋法史論集第五）』創文社。

島村一平（編）2022：『邂逅する写真たち：モンゴルの 100 年前と今』（日本・モンゴル外交関係樹立 50 周年記念特別展図録）国立民族学博物館。

高遠拓児 2000：「清朝の監獄と越獄・反獄：乾隆後半期の事例を中心として」『中央大学アジア史研究』24：133-149。

高遠拓児 2003：「清末福建における監獄と押所」『明代史研究会創立三十五年記念論集』汲古書院，197-224。

田中克彦 1969：「大島清庫倫出張報告書」『遊牧社会史探究』第 41 冊，文部省科学研究費による総合研究・遊牧社会研究グループ刊。

萩原 守 2001：「清代モンゴルのイフシャビに対する法律の適用：大活仏の領民と刑事裁判」『史林』84-4：100-127。

萩原 守 2006：『清代モンゴルの裁判と裁判文書』創文社。

- 萩原 守 2019: 「清代モンゴルにおける犯罪者の捕獲期限」『法制史研究』68: 27–83.
- 萩原 守 2020: 「オドセルとナワーンの事件（一八七七年）から見る清代のモンゴル人社会」『中央アジアの歴史と現在：草原の叡智』（アジア遊学 243）勉誠出版，118–132.
- 萩原 守 2024: 「清代モンゴルにおける監獄（未決監）の実態：一九世紀末の庫倫辦事大臣衙門監獄を事例として」『史林』107-5: 37–71.
- 萩原 守・額定其勞（エルデンチロ）2015 「モンゴル法制史研究動向」『法制史研究』64: 171–211.
- 濱島敦俊 1984a: 「明清時代，中国の地方監獄：初歩的考察」『法制史研究』33: 1–60.
- 濱島敦俊 1984b: 「明末東南沿海諸省の牢獄」西嶋定生博士還暦記念論叢編集委員会編『西嶋定生博士還暦記念：東アジア史における国家と農民』山川出版社，473–486.
- 堀田あゆみ・渡邊三津子・鈴木康平（編著）2022: 『モンゴルにおける木材利用と森林後退：19世紀末から20世紀前半の写真より』遊文舎.
- ポズドネエフ著（東亜同文会編纂局訳）1908: 『蒙古及蒙古人』東亜同文会.

【中国語文献】

- 紀 大春（編）1978: 『1821–1950 年 中西回俄歴表』新疆人民出版社.
- 包 桂芹（編著）1995: 『清代蒙古官吏伝』民族出版社.
- 頼 惠敏 2020: 『満大人の荷包：清代喀爾喀蒙古の衙門与商号』中華書局.
- 章 伯鋒（編）1965: 『清代各地將軍都統大臣等年表』中華書局.

【英文文献】

- Andrews, R. Ch. 1921: *Across Mongolian Plains: A Naturalist's Account of China's "Great Northwest"*, New York / London.
- Grønbech, K. & J. R. Krueger 1955: *An Introduction to Classical (Literary) Mongolian*, Wiesbaden.
- von Möllendorff, P. G. 1892: *A Manchu Grammar, with Analysed Texts*, Shanghai.

【キリル文字文献】

- Дариймаа, А. 1986: *Монгол хүний нэрийн товч толь*, Улаанбаатар.
- Нацагдорж, Б. & Оюунжаргал, О. 2021: *Хүрээны сайдын газарт холбогдох хоёр зүйл сурбалж бичиг, Хүрээний хэргийн зүй*, Улаанбаатар.
- Нинжбадгар, З. 2014: *Жибзундамба хутагтын шавийн захиргаа (XVII–XX зууны эхэн)*, Улаанбаатар.
- Позднеев, А. 1898: *Монголия и Монголы*, Санкт-Петербург.
- Пүрэв, О. 2004: *Монгол төрийн голомт*, Улаанбаатар.
- Сономдагва, Ц. 1961: *Манжийн захиргаанд байсан үеийн ар Монголын засаг захиргааны зохион байгуулалт (1691–1911)*, Улаанбаатар.
- Сономдагва, Ц. 1998: *Монгол Улсын засаг, захиргааны зохион байгуулалтын өөрчлөлт, шинэчлэл*, Улаанбаатар.
- Сэржээ, Ж. 1991: *Монгол хүний нэрийн лавлах толь*, Улаанбаатар.
- Сэрээтэр, Ө. 1999: *Монголын Их Хүрээ, Гандан хийдийн түүхэн бүтэцийн товч 1651–1938*, Улаанбаатар.
- Шархүү, Ц. 1984: “Дөрвөн аймгийн засаг хошуудын засаг ноёдын товч шастир,” 大阪外国語大学『モンゴル研究』7: 119–210.